



手作りカヌーで
四万十川沈旅行



千里の道も一歩から



無人島サバイバル



俺たちの
サバイバルキャンプ



卒業記念
ビデオ製作

Venture Project 事例集



白馬岳に行く

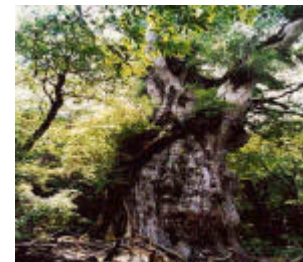
サンタさん



ガールを知る



The Last Dance



淡路島一周
サイクリング



ベンチャープロジェクト 事例集



日本ボーイスカウト大阪連盟

目 次

No	プロジェクト名		挑戦アワード	頁
	地 区	団 、 隊	代表者	
1	手作りカヌーで四万十川沈旅行		3. 高度な野外活動	1
	北大阪地区	枚方 第16団 VS隊	石田 晋一	
2	千里の道も一歩から		5. 文化活動	2
	淀川北地区	大阪 第138団 VS隊	庄田 善彦	
3	無人島サバイバル		3. 高度な野外活動	3
	三島地区	茨木 第8団 VS隊	近藤 誠宏	
4	僕たちのサバイバルキャンプ		3. 高度な野外活動	4
	吹田地区	吹田 第4団 VS隊	木下 智	
5	白馬岳に行く		3. 高度な野外活動	5
	東阪地区	東大阪 第3団 VS隊	吉岡 扶矩	
6	淡路島一周サイクリング耐久移動キャンプ		3. 高度な野外活動	6
	南東地区	大阪 第1団 VS隊	桜井 信吾	
7	The Last Dance		4. 体力作り	7
	北河内地区	寝屋川 第4団 VS隊	中村 健一郎	
8	ガールを知る		5. 文化活動	8
	南大阪地区	藤井寺 第3団 VS隊	山村 恭淑	
9	サンタさん		5. 文化活動	9
	泉州南地区	阪南 第1団 VS隊	山下 晃	
10	卒業記念ビデオ製作		6. 専門分野、得意分野の探求	10
	泉州地区	堺 第23団 VS隊	坂口 周兵	
11	隊組織と隊運営（隊会議事例）			11

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	北大阪地区	団・隊	枚方第16団ベンチャースカウト
代表者名	石田 晋一	隊長名	稲原
プロジェクト	手作りカヌーで四万十川沈旅行		
目的	夏季キャンプ運営 カヌーツーリング 中村市との交流 中村市の史跡調査 個人プロジェクト }		
挑戦アワード	3. 高度な野外活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
川畑 良夫		チーフ	
確井 哲平		マネージャー	
小出 拓夫			
竹内 章展			
藤田 晴宇			
確井 大聖			
石田 晋一			
稲原 宏憲			
活動期間	平成10年2月17日～8月31日		
活動場所	高知県四万十川周辺		
活動の概要	・手作りカヌーの製作 ・枚方に流れ込む三大河川のカヌーイング ・四万十川沈旅行		
添付書類			

企 画 書

プロジェクト テーマ名	手作りカヌーで四万十川沈旅行
----------------	----------------

所 属	大阪連盟 北大阪地区 枚方第16団ベンチャースカウト隊
作 成 者	石田 晋一

プロジェクト メンバー	氏名	役割
	川畑 良夫	チーフ
	小出 拓夫	マネージャー
	確井 大聖	
	石田 晋一	
	森富 正宏	
	藤田 晴宇 竹内 章典	
	大芝 広巳 稲原 宏憲	

隊運営会議 承認	平成10年 2月17日 (火)
----------	-----------------

議長	小出	会計	川畑	書記	石田	備品	確井
----	----	----	----	----	----	----	----

隊スタッフのコメント

隊長のコメント 夢の実現にむけてカヌーをこぎだそう

企 画 (計画の概要)

目 的 自分のやりたい事 なぜ・何の為に	・夏季キャンプ運営 ・カヌー ツーリング ・中村市との交流 ・中村市の史跡調査 ・個人プロジェクト 全員1つ以上のアワード獲得			
活動内容 どの程度まで 何をどのように	・枚方と中村の市役所を訪問し活動の報告 ・決めたコースをカヌーで無事完走			
参 加 者 (活動チーム) ◎チーフ ○マネージャー	氏 名	川畑 良夫	氏 名	藤田 晴宇
	氏 名	小出 拓夫	氏 名	確井 大聖
	氏 名	石田 晋一	氏 名	森富 正宏
	氏 名	確井 哲平	氏 名	稲原 宏憲
	氏 名	大芝 広巳	氏 名	竹内 章典
	氏 名		氏 名	
活動場所	四万十川周辺			
期 間 (メインテーマ の実施時期何日 くらいか)	平成10年8月10日～8月15日			

企 画

プロジェクト名 (ネーミング)	手作りカヌーで四万十川沈旅行	
挑戦分野 (7つの分野)	高度な野外活動	
目 的 実施したい 内容及び方法	・夏季キャンプ ・カヌー ツーリング ・中村市との交流 ・中村市の史跡調査 ・個人プロジェクト 全員1つ以上のアワード	
プロジェクト 活動期間	期 間	平成10年 2月17日 ～ 8月31日
	①計画書完成	平成10年 4月 1日 迄
	②実施展開	平成10年 8月10日 ～ 8月15日
	③報告書完成	平成10年 8月31日 迄
活動場所	高知県四万十川周辺	
プロジェクトの 参加者別テーマ	氏 名	個 人 テ ー マ
	藤田、確井、稲原	夏季キャンプ運営
	石田、森富、確井	カヌー ツーリング
	川畑、大芝、竹内	中村市との交流
	川畑、小出	中村市の史跡調査
	各個人	個人プロジェクト
予算	概算予算	25,000- / 一人
	資金捻出方法	個人負担

計 画 書

プロジェクト テーマ名	手作りカヌーで四万十川沈旅行		
挑戦アワード	高度な野外活動		
プロジェクト 活動期間	全 体 期 間	平成10年 8月 9日(日) ～ 8月16日(日)	
	活 動 期 間	テーマ	実施日
		四万十川までの移動	8/9～8/11
		カヌーイング	8/12、8/13
		観光(中村市)	8/14、8/15
		友好都市交流	
目的地 (主プロジェクト 実施地)	四万十川		

所 属	大阪連盟 北大阪地区 枚方第16団ベンチャースカウト隊								
チーム名	四万十回こぐ会								
チーフ氏名	川畑 良夫			マネージャー氏名		確井 哲平			
グループ メンバー	小出 拓夫			川畑 良夫		石田 晋一			
	確井 哲平			藤田 晴宇		稲原 宏憲			
	竹内 章展			確井 大聖					
参加リーダー	稲原 良三			内田 勝三		大手 晴雄			
承 認	平成10年 7月31日 VS隊会議にて								
議長	小出	書記	石田	備品	確井	会計	川畑	リーダー	稲原

プロジェクト全体計画

プロジェクト名 (ネーミング)		手作りカヌーで四万十川沈旅行				目的 (何故・何のために)		四万十川カヌーイング 四万十川までの移動							
個人別課題	参加者氏名														
	挑戦分野														
	活動内容														
	活動方法														
	役割	カヌーツーリング担当													
活動場所		大阪～四万十川と四万十川周辺				期間	プロジェクト全体期間		年 月 日 () ～ 年 月 日						
							目的地での実施期間		H10年 8月 9日 (日) ～ H10年 8月16日						
予算 (計画段階での概算予算)		支出の部	交通費	14,260		消耗品費			収入の部	個人負担			備考		
			食費	4,200						隊費					
			備品費			その他	参加費 16,000			その他					
			教材費			支出合計	34,460			収入合計					
プロジェクト全体計画スケジュール															
項目 \ 年月		98年							99年						
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
企画書承認															
計画書完成 (全体)				↔											
部分計画	カヌーイングの技術			↔											
	カヌーの組立整備			↔											
実施計画書 (完成)				↔											
実施展開					↔										
報告書まとめ						↔									
プロジェクト実施に必要な技能・知識		1. カヌーの技術		5.		予想される障害 (クリアにするもの・事故等)				1. 交通事故		5. 虫さされ			
		2. カヌーの組立とかたづけ		6.						2. 水難事故		6. 熱中病、日射病			
		3. カヌーの修理技術		7.						3. 打撲、切り傷		7.			
		4. 時刻表から電車の予定の立てかた								4. 火傷		8.			

報 告 書

プロジェクト テーマ名	手作りカヌーで四万十川沈旅行		
挑戦アワード	高度な野外活動		
プロジェクト 活動期間	全 体 期 間	平成10年 8月 9日(日) ～ 8月15日(土)	
	活 動 期 間	出発日時	平成10年8月9日(日) 22:30
		集合場所	長尾駅
		帰着日時	平成10年8月16日(日) 0:30
		帰着場所	長尾駅
目的地 (主プロジェクト 実施地)	四国		

所 属	大阪連盟 北大阪地区 枚方第 1 6 団ベンチャースカウト隊								
チーム名	四万十回こぐ会								
チーフ氏名	川畑 良夫			マネージャー氏名			碓井 哲平		
グループ メンバー	小出 拓夫			川畑 良夫			石田 晋一		
	碓井 哲平			藤田 晴宇			稲原 宏憲		
	竹内 章展			碓井 大聖					
参加リーダー	稲原 良三			内田 勝三			大手 晴雄		
承 認	平成 1 0 年 7 月 3 1 日 V S 隊会議にて								
	議長	小出	書記	石田	備品	碓井	会計	川畑	リーダー

手作りカヌーで四万十川沈旅行全体計画

日本ボーイスカウト大阪連盟・北大阪地区・枚方16団VS隊

テーマ	項目		96/12	97/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	98/1	2	3	4	5	6	7	8	9	
手作り カヌーで 枚方に 流れ込む 3大河川 をカヌー イング	企画書承認		＊																						
	計画書承認		＊																						
	カヌー 製作	計画	0000 000 000 0																						
		結果	++	+	++＊	++＊	＊	＊	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	+	＊＊	＊	+	＊	+	＊					
			22	9	2230	29	31	22	19	13	25	22	23		22	29	25	16	6						
	23		2331				20	14	26	23	28		28				31								
	カヌー技術 川下り	計画	000 000																						
結果		＊ ＊																							

プロジェクト実施後の評価・反省1

1. プロジェクト名	手作りカヌーで四万十川沈旅行（移動編）		
2. 参加者氏名	石田、確井、稲原		
3. 実施日	H10年8月9日(日) ～ H10年8月10日(月)		
4. 装備・準備段階での評価（メンバーそれぞれの評価） 装備が多すぎた・もっと吟味すべきだった			
5. 課題に対する評価（メンバーそれぞれの評価）			
参加者	課題	評価	達成度
石田 晋一	計画	まあまあよし	B
確井 哲	記録	問題なし	B
稲原	安全	//	B
6. プロジェクトで学んだこと 予定はゆとりをもって立てるべきだった 2重3重に計画をつくっておくべきだった。			
7. チームワークの評価 まあまあよかった			
8. 目標達成度と自己評価 徳島には時間がなくてたどりつけなく残念だった。 ハプニングもあって十分に楽しめた			
9. 新たなニーズは生まれたか 荷物をあまり持って行かずにこういう旅をしたい。			

プロジェクト実施後の評価・反省2

1. プロジェクト名	手作りカヌーで四万十川沈旅行（川下り編）		
2. 参加者氏名	参加者全員		
3. 実施日	H10年8月11日(火) ～ H10年8月12日(水)		
4. 装備・準備段階での評価（メンバーそれぞれの評価） カヌーイングの技術は3大河川のカヌーイングでばっちりだ			
5. 課題に対する評価（メンバーそれぞれの評価）			
参加者	課題	評価	達成度
小出	会計	会計は内田副長に任せていた	B
川畑	安全・救急	事故もなく良かった	B
確井哲	全体係	すみずみまでよく気を配っていた	A
藤田	食事係	弁当の手配などうまく行っていた	A
石田	コースマン	先導で誘導する役目をしていなかった	B
稲原	安全・救急	大きな事故もなく良かった	B
竹内	記録係	記録は行なっていなかった	C
6. プロジェクトで学んだこと カヌーは漕がなきゃ進まない			
7. チームワークの評価 それぞれうまくいった			
8. 目標達成度と自己評価 事故なくけがなく下れたので、下るという展では良かったが かかりの役目を忘れてしまったのが汚点			
9. 新たなニーズは生まれたか カヌーの修理 もっとすごい川に挑んで見たい			

プロジェクト 実施記録	プロジェクト名		挑戦アワード	活動期間	チーフ氏名	マネージャー氏名		
	1. 手作りカヌーで枚方に流れ込む三大河川のカヌーイング		専門得意分野の探求	H8.12.15～H10.8.1	石田晋一	碓井哲平		
	2. 手作りカヌーで四万十川沈旅行＜発展プロジェクト＞		高度な野外活動	H1-2.11～H10.8.16	川畑良夫	碓井哲平		
1. 手作りカヌーで枚方に流れ込む三大河川のカヌーイング								
プロジェクト テーマ展開	項目概要・工程		展開具体化事項		内容（実施日・場所 費用・参加人数）		反省課題・備考	
企画承認	企画発案		隊会議にて石田発案討議		H8.12.15			
	企画書作成				1996/12/15～12/30		3～9艇に変更し夢が膨らんだ	
	企画書承認		隊運営会議		H8.12.30		大幅な期間延長になった(9～21ヶ月)	
計画書承認	計画検討	目標	隊会議/手作り9艇・三河川カヌーイング		H9.1.26～3.30		メンバーを増やし隊全体の活動に発展した	
		活動スケジュール	H9.1.31～10.30					
		メンバー	石田,碓井,藤田,碓井,稲原,森富		(途中から参加)小出,大柴,竹内		大柴	
	計画書作成				1997/2/9～		・途中参加で状況を飲み	
	計画書承認		隊会議		H9.3.30		込むのに時間がかかった	
カヌー製作	1. 資金集め		団主催もちつき・クリスマス会にて不要品バザー		1996/12/22 \9550		ヨカッタ---	
	2. 調査		藤田カヌー研究所見学・調査		1997/4/13 京都府相楽郡笠置町			
			ファルトボードの実物調査と試乗		1997/2/9 スカウトハウスとんぼ池		小出	
			インストラクターの説明会		H9.3.23		ながかったなー	
	3. 製図・型紙作り		実物分解寸法取り・製図・型紙取り		H9.3.30～		一人作業は寂しかったよ	
	4. 材料表作成		＜別紙参照＞		H9.4.1～			
	5. 材料集め		防水テント生地布		H9.3.31 サンエー工作所訪問お願い			
			ベニヤ板・角材		梁井工務店・中島ハウジング		森富	
			塗料・金物・ホルト・ナット・木ねじ		小島塗料		ドリル作業のコツは吞込んだ	
			塩ビパイプ・SUSパイプ・ハトメ・ロープ				その他工具もそこそこOK	
	6. 作業場所の確保		バンチャーカヌー工房開所/マーキーテントの設置		H9.4.23作業机・照明・コンセント・看板設置		良い経験	
	7. 工具の準備		大工道具/金切り鋸/電動糸鋸/電動ドリル					
			グラインダー/サンダー/万力/クランプ/ヤスリ				藤田	
	8. 材料取り		けがき・材料切断・端面仕上げ		加工の種類		赤い血,黄色い悲鳴	
	9. 骨組み部品加工		接着・ビス止め・木ねじ止め		・木工加工		晴れあがった親指	
	10.骨組立・仕上げ調整		位置合わせ・ケガキ・穴あけ・木ねじ止め				カナヅチは硬かった	
			センター出し・反り調整・ヤスリバーバー仕上げ		・金属加工			
	11.骨分解・塗装		金具類・パイプ類を取り除き木部に塗装		・組付け組立			
	12.骨再組立		塗装乾燥後金具類を取りつけ組み立てる		・塗装乾燥		碓井大	
	13.防水布の型どりけがき		骨組みに合わせケガキ・小物は寸法展開		・裁断縫製		早く乗りたかった	
	14.防水布の裁断		ハサミによる		・はとめ加工		本当に良かった	
	15.縫製		工業用ミシン2台		瀬戸川縫製所で出張加工・依頼			
	16.はとめ加工・ロープ通し		防水布丸打ち抜き・ハトメパンチ・案内ワイヤ					
	17.キャリングバックの製作				稲原隊長に依頼		稲原	
	18.カヌー工房の閉鎖		マーキーテントの分解清掃・残材料片付け		H10.4.29		本当に出きるとは	
完成・進水式	5艇：木津川				H9.11.24城陽市寺田(岩田松原対岸)		思わなかった	
支援者報告御礼	カヌー製作中間報告発表		団行事「クリスマス会」		1997/12/2カヌー組立分解実演・経過予定の説明			
	材料提供業者に完成報告御礼		サンエー工作所		H10.4.25 京田辺市		竹内	
			中島ハウジング		H10.4.25 枚方市大峰		糸鋸加工の腕前はそこそこ	
カヌーの 操作技能訓練			読売新聞取材報道				行ける。早く四万十川などの	
	分解・収納・組立の練習		H10. 1. 31				他の河川を下りたい	
	カヌーの運搬・移動方法ポイント		FM守口					
	服装・準備体操・装備点検		H10. 2. 15					
	付属品準備・装備ポイント		コースの下見				碓井哲	
	着水・乗艇・降艇・停留		・木津川		H9.9 隊長		こんなカヌーで河を下れるのか	
	離岸・接岸・流れに入る		・宇治川		H10.7.11 隊長・副長		不安だった	
	バドリング		・桂川		H10.7.19 チーフ以下4名		進水式で行けそうだと気持	
	直進・後進		ツーリング計画書作成		H10.7. 17 チーフ		が膨らんだ	
	回転（右・左・急速）		・5艇:木津川カヌーイング		H9.11.24 城陽市寺田			
	バランスング		・4艇:宇治川カヌーツーリング		H10.7.19 京都市伏見区伏見港～八幡市御幸橋			
	ドローストローク		・5艇桂川カヌーツーリング		H10.8.1 羽束橋～御幸橋		石田チーフ	
	フェリーグライド						ねじ止め作業が結構難し	
	瀬の下降		チェックリスト技能確認		別紙参照		かった。ネジばか修理を	
	波の見分け方						覚えた	
	川の流れの読み方		完成カヌー数：一人乗り9艇 二人乗り1艇 総材料費：101,497(11,277/1艇) 総加工時間：465時間				本当に出来て	
	ラインクダウン・ボートージ						アンビリーバル	
	沈の処置							
	カヌーの整備							
	修理技術							
報告書作成	隊会議		反省会と評価実施		課題・役割に対して学んだこと		総合評価点：74点	
					目標達成度		スカウト替われど絶えず出席技能章	
	報告書作成		菅原公民館:レポート作成集会		1998/8/29～		皆勤総合功労賞：内田副長	
	報告書承認				1998/9/13～23			

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	淀川北地区	団・隊	大阪第138団VS隊
代表者名	庄田 善彦	隊長名	黒藪 雄士
プロジェクト名	千里の道も一歩から		
目的			
挑戦アワード	5.文化活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
庄田 善彦	大阪138団	チーフ	
尾崎 真吾	//	記録	
活動期間	平成10年12月26日～平成10年12月29日		
活動場所	京都市上京区		
活動の概要	・京都市上京区内の寺院へ訪問し、調査を行なう。 ・訪問先で外国人と交流する。 予算：交通費¥6,840－／2人×3日		
添付書類	企画書 計画書 報告書		

プロジェクト企画書

所属	大阪第138団 VS隊	氏名	庄田 善彦
プロジェクト名	千里の道も一歩から		
種目	文化活動		
実施予定日	平成10年12月1日～12月31日		
企画内容 (計画概要)	・京都市上京区内の寺院へ訪問し調査を行なう。 ・訪問先で外国人と交流する。		
プロジェクト期間	平成10年12月23日（企画書提出） ～ 平成 年 月 日（報告書提出）		
プロジェクト	尾崎 真吾（記録）		
実施予定	庄田 善彦（チーフ）		
メンバー			
計画書提出予定日	平成10年12月23日 → 担当指導者		
予算（概算） 捻出方法	6840円（1名当り3420円） 交通費×3日分		
備考			

承認： H10. 12. 23 大阪第138団 VS隊 黒藪 雄士

淀川北地区 合同プロジェクト 計画書

アワード	文化活動
所属	日本ボーイスカウト大阪第138団 VS隊
チーム名	チーム受験生
メンバーの名前 (役割)	庄田 善彦 (チーフ) 尾崎 真吾 (記 録)
実施・展開 日時	平成10年12月26日 8:00 ~ 17:00 平成10年12月28日 8:00 ~ 17:00 平成10年12月29日 8:00 ~ 17:00 平成10年12月30日 8:00 ~ 17:00
隊長承認	黒藪 雄士

合同プロジェクト実施計画書

個人の目標	1日目： できるだけ外国人と交流する 2日目： 北野天満宮をくわしく調べる 3日目： この日は多くの寺をまわる予定（全部調べられるようにする） 4日目： 京都の寺の雰囲気を感じる
個人の採集目標 (具体的に)	それぞれの寺院の雰囲気、由緒も考えに入れて、それぞれの寺院がよく表せるように写真を撮る
メンバーの役割内容	庄田： チーフ 写真撮影 尾崎： 記録 写真撮影
実施日時	①平成10年12月26日 8:00 ~ 17:00 ②平成10年12月28日 8:00 ~ 17:00 ③平成10年12月29日 8:00 ~ 17:00 ④平成10年12月30日 8:00 ~ 17:00

第1日目の展開内容

平成10年12月26日(土) 8:00 集合 ～ 17:00 解散予定

展開(調査)内容	<テーマ1> 京都市上京区内の寺院へ訪問し、調査を行なう <テーマ2> 訪問先で外国人と交流する
調査方法	・寺、神社の由緒を調べる ・神主さん、住職さんに質問する ・写真撮影する
交通	阪急京都線
移動ルート	<行き> 阪急上新庄 ～ 阪急烏丸 <帰り> 阪急西院 ～ 阪急上新庄
備品	カメラ、地図、筆記用具、弁当
予算	総額1440円(1名当たり720円) 出費予定内容 ・上新庄～烏丸の交通費 ・西院～上新庄の交通費
安全対策とその処置	交通ルールを守る
外国人との交流内容	・出身国はどこか ・なぜ京都に来たのか ・京都のどこがおもしろかったかを質問する
隊長記入欄	

第2日目の展開内容

平成10年12月28日(月) 8:00 集合 ～ 17:00 解散予定

展開(調査)内容	<テーマ1> 京都市上京区内の寺院へ訪問し、調査を行なう <テーマ2> 訪問先で外国人と交流する
調査方法	・寺、神社の由緒を調べる ・神主さん、住職さんに質問する ・写真撮影する
交通	阪急京都線、京都市営バス
移動ルート	<行き> 阪急：上新庄 ～ 阪急：烏丸 市バス：四条烏丸 ～ 市バス：護王神社前 <帰り> 市バス：千本今出川 ～ 市バス：大宮 阪急：大宮 ～ 阪急：上新庄
備品	カメラ、地図、筆記用具、弁当
予算	総額2320円(1名当たり1160円) 出費予定内容 ・上新庄～護王神社前の交通費 ・千本今出川～上新庄の交通費
安全対策とその処置	交通ルールを守る
外国人との交流内容	・出身国はどこか ・なぜ京都に来たのか ・京都のどこがおもしろかったかを質問する
隊長記入欄	

第3日目の展開内容

平成10年12月29日（火） 8:00 集合 ～ 17:00 解散予定

展開（調査） 内容	<テーマ1> 京都市上京区内の寺院へ訪問し、調査を行なう <テーマ2> 訪問先で外国人と交流する
調査方法	・ 寺、神社の由緒を調べる ・ 神主さん、住職さんに質問する ・ 写真撮影する
交通	阪急京都線、京都市営地下鉄烏丸線
移動ルート	<行き> 阪急：上新庄 ～ 阪急：烏丸 地下鉄：烏丸 ～ 地下鉄：今出川 <帰り> 阪急：大宮 ～ 阪急：上新庄
備品	カメラ、地図、筆記用具、弁当
予算	総額1900円（1名当たり950円） 出費予定内容 ・ 上新庄～今出川の交通費 ・ 大宮～上新庄の交通費
安全対策と その処置	交通ルールを守る
外国人との 交流内容	・ 出身国はどこか ・ なぜ京都に来たのか ・ 京都のどこがおもしろかったか を質問する
隊長記入欄	

第4日目の展開内容

平成10年12月30日（水） 8:00 集合 ～ 17:00 解散予定

展開（調査） 内容	<テーマ1> 京都市上京区内の寺院へ訪問し、調査を行なう <テーマ2> 訪問先で外国人と交流する
調査方法	・ 寺、神社の由緒を調べる ・ 神主さん、住職さんに質問する ・ 写真撮影する
交通	阪急京都線
移動ルート	<行き> 阪急：上新庄 ～ 阪急：烏丸 <帰り> 阪急：大宮 ～ 阪急：上新庄
備品	カメラ、地図、筆記用具、弁当
予算	総額1440円（1名当たり720円） 出費予定内容 ・ 上新庄～烏丸の交通費 ・ 大宮～上新庄の交通費
安全対策と その処置	交通ルールを守る
外国人との 交流内容	・ 出身国はどこか ・ なぜ京都に来たのか ・ 京都のどこがおもしろかったか を質問する
隊長記入欄	

“千里の道も一歩から”

報 告 書

日本ボーイスカウト大阪第138団VS隊

庄田 善彦

1. チーム名 チーム受験生
2. メンバー 尾崎真吾 [中学3年生:記録、写真撮影]
3. 実施日程 平成10年12月26日～30日

I. 主旨

各団のベンチャースカウト活動が一つのテーマでプロジェクトを展開する事で、成長と文化・国際交流・友情を深め、今後の活動に役立てる。

II. プロジェクト名

千里の道も一歩から

III. 挑戦分野

文化活動

IV. 行動範囲

京都市上京区

V. 役割

庄田 善彦 (チーフ、写真撮影)

尾崎 真吾 (記録、写真撮影)

VI. プログラム

12月26日

8:00 阪急上新庄駅集合

8:10 // 出発

9:10 阪急烏丸駅着

↓ 徒歩

10:20 出世稲生神社着

↓ 寺めぐり

12:00 福勝寺にて昼食

↓ 寺めぐり

18:00 寺めぐり終了

18:30 阪急西院駅着

19:30 阪急上新庄駅着、解散

12月28日

7:30 阪急上新庄駅集合
7:45 // 出発
8:45 阪急烏丸駅着
8:50 市バス烏丸発
9:10 市バス護国神社前着
↓ 寺めぐり
12:00 浄福寺にて昼食
↓ 寺めぐり
18:00 寺めぐり終了
18:20 市バス千本今出川発
18:40 市バス大宮着
18:50 阪急大宮駅発
19:45 阪急上新庄駅着、解散

12月29日

8:00 阪急上新庄駅集合
8:10 // 出発
9:10 阪急烏丸駅着
9:15 地下鉄四条駅着
9:20 // 発
9:40 地下鉄今出川駅着
9:50 大聖寺着
↓ 寺めぐり
12:00 小川公園にて昼食
↓ 寺めぐり
18:00 寺めぐり終了
18:30 阪急大宮駅着
18:35 // 発
19:25 阪急上新庄駅着、解散

12月30日

8:00 阪急上新庄駅集合
8:10 // 出発
9:10 阪急烏丸駅着
9:50 宗像神社着
↓ 寺めぐり
12:00 鴨川河原にて昼食
↓ 寺めぐり
18:00 寺めぐり終了
18:40 阪急大宮駅着
19:30 阪急上新庄駅着、解散

VII. 実施内容

(テーマ1) 上京区内の寺院調査

別ファイルに記録(一部サンプルを添付)

(テーマ2) 外国人との交流

～質問内容～

(A) 出身国はどこか

(B) なぜ京都に来たのか

(C) 京都のどこがおもしろかったか

～テーマ2 実施結果～

① 12月28日 13:00 2人組(男性1、女性1)

(A) フランス(パリ)

(B) 京都の観光

(C) 京都の歴史

② 12月29日 11:50 1人(男性)

(A) アメリカ(ニューヨーク)

(B) 英会話教室NOVAの先生として

(C) 鴨川(野鳥サギ)

その後に質問された

アメリカは好き → Yes

アメリカの何が好き → Movie

映画の誰が好き → S. スタローン

③ 12月30日 9:46 1人(女性)

(A) オーストラリア

(B) 観光

(B) 清水寺、銀閣寺

VIII. 反省、感想

- ・京都市バスの事前調査が甘かった。→計画不足
(時刻、路線、阪急との連絡)
- ・京都市営バスを有効に使えば良かった
- ・2人で協力し合って仲良く出来た
- ・外人さんに質問する内容が少なかった

－感想－

今回の上京区の寺院調査では、結局百軒の寺や神社をまわったのだが、ほぼ全部の寺や神社の方が年末で忙しい時期なのに初対面の僕たちにとっても親切にしてくださった。

中にはお菓子をごちそうして下さった方もいて、本当にうれしかった。

寺院調査をするにあたって、僕が重視していたのは写真なのだが暗かったりブレているものもあるけど、気に入った写真がけっこう撮れたので目標は達成で来たと思う。

外人さんとの交流は英語60点の僕にとって相当厳しいものだったけど、一度話しかけてしまうと、なかなか余裕を持って会話ができていたと思う。しかし、質問内容が少なかったので、大阪の事などの会話をアドリブですれば良かったと反省している。

このほか、いろいろ反省したり、気分が良くなることがあったが、いつも自分勝手に行動していた僕たちに何の文句も言わず一緒にやってくれた尾崎君に感謝したい。ただでさえ中3の入試前でいそがしく、年末でさらに忙しいのに、僕の都合に合わせてくれて本当に有難かった。

二人が仲良くうまくいったのは、自分勝手な僕にあわせてくれた彼のおかげだと思う。本当に有り難う。

平成11年1月10日大阪第138団 VS 隊隊長 黒藪雄士 承認

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	三島地区	団・隊	茨木第8団V S隊
代表者名	近藤 誠宏	隊長名	雲林院 寿志
プロジェクト名	無人島サバイバル		
目的	日頃、不自由のない生活をしているが無人島という環境で何ができるか試す中で、野外生活の向上を計る。		
挑戦アワード	3.高度な野外活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
近藤	茨木8団	議長	
中谷	//	副議長、飯チーフ	
鈴木伸	//		
小森	//		
山田	//		
茨木	//	海チーフ	
鈴木英	//		
寺田	//		
福田	//		
大番	//		
雲林院	V S隊長		
西村	B S隊長		
竹長	B S隊長副長		
活動期間	98年8月11日（火）～8月15日（土）		
活動場所	瀬戸内海の小島（大久野島、有竜島など）		
活動の概要	目的：観光化されていない（キャンプ場もない）本当の無人島で暮らす。 サバイバルチックな生活（釣り、水の精製、いかだ など） 予算：12,000－（スカウト）、10,000－（リーダー）		
添付書類	企画書 計画書 報告書		

プロジェクト企画書

プロジェクト テーマ名	無人島サバイバル
----------------	----------

所 属	大阪連盟 三島地区 茨木第8団ベンチャースカウト隊
作 成 者	近藤 誠宏

プロジェクト メンバー	氏名		役割	
	近藤	誠宏	チーフ マネージャー	
	中谷	暢宏		
	小森	健太		
	寺田	容章		
	鈴木	伸明		
	福田	和大		
	山田	彰久		
茨木	洋介	大番	和樹	
	鈴木	英訓		

隊運営会議 承認	1999年 4月 5日 (日)
----------	-----------------

議長	近藤	副議長	中谷	会計	近藤	備品	小森
----	----	-----	----	----	----	----	----

隊スタッフのコメント

隊長のコメント	1999年4月5日	雲林院 寿志
計画をしっかりと立て、安全第一に努めてください。時間的な計画役割分担をしっかりと決め、まず出来る事、今の段階でわからないおKと、自分達の力では出来ない事を明確にして下さい。		

企 画

プロジェクト名 (ネーミング)	無人島サバイバル	
挑戦分野 (7つの分野)	③高度な野外活動	
目 的 実施したい 内容及び方法	本当の無人島で暮らしサバイバルチックな生活をする。 ①いかだで無人島に渡る。 ②狩猟、採集生活（釣り、貝採りなど）をする。 ③野営生活基盤（火、見ず、テント）の工夫	
プロジェクト 活動期間	期 間	年 月 日 ～ 年 月 日
	①計画書完成	年 月 日
	②実施展開	1998年 4月10日 ～ 1998年 8月15日
	③報告書完成	1998年10月11日
活動場所	瀬戸内海の無人島	
プロジェクト テーマ別担当者	①総括府	近藤 誠宏
	②臨海局	茨木 洋介
	③炊事局	中谷 暢宏
	④野営局	小森 健太
予算	概算予算 12,000-／一人 資金捻出方法 積み立て	
その他	①リーダーへの参加依頼	

野外活動プロジェクト 計 画 書

プロジェクト テーマ名		無人島サバイバル	
挑戦アワード		高度な野外活動	
プロジェクト 活動期間	出発日時	1998. 8月11日 AM6:00	
	集合場所	MOA千里丘センター	
	帰着日時	1998. 8月15日 PM7:00	
	帰着場所	MOA千里丘センター	
目的地	広島県三原市幸崎町能地 有竜島		

所 属	大阪連盟 三島地区 茨木第 8 団ベンチャースカウト隊									
チーム名	A. T ブラザース									
プロジェクト メンバー	氏名				氏名					
	近藤 誠宏 (チーフ)				大番 和樹					
	中谷 暢宏(マネージャー)				寺田 容章					
	小森 健太				雲林院 寿志 (V S リーダー)					
	茨木 洋介				西村 光弘 (B S リーダー)					
	鈴木 伸明									
	鈴木 英訓									
	山田 彰久									
承認 1998 年 4 月 1 8 日 V S 隊会議にて										
隊長	雲林院	副隊長	西村	会計		備品		作成者	近藤	

I. プロジェクト推進計画

①企画書の承認

1998年4月18日 VS隊会議

②メンバーの会合・打ち合わせ内容（企画書作成迄）

4月10～11日 計画、検討、下見（広島県大久野島、雨竜島など）

4月18～19日 計画案の検討、承認

5月 9～10日 計画内容の実施、訓練

6月20～21日 //

7月11～12日 //

8月11～15日 実施

8月17日 後片付け

③. プロジェクト推進役割分担

1. 総括局（全般の指揮、監督） 担当者：近藤誠宏（議長）

2. 臨海局（いかだ、潮流、釣具、安全） 担当者：茨木洋介（局長）

3. 炊事局（水、火、メニュー、食糧） 担当者：中谷暢宏（局長）

4. 野営局（テント、トイレ、ゴミ、安全） 担当者：小森健太（局長）

④. プロジェクト推進にあたってのインストラクターの要請

氏名	現在の役務	依頼事項
竹長 厚さん	前BS副長	島の情報、海の情報

II. プロジェクト計画内容

①プロジェクト名

無人島サバイバル

②テーマ（何をするか）

1. 本当の無人島で暮らす
2. サバイバルチックな生活をする。

③. 目的（何のために）

1. ベンチャーアワード「高度な野外活動」の取得
2. 自分の力をためす。釣り、貝採りなどの狩猟生活をする。

④. 内容（どんな事をするのか）

1. いかだで島まで渡る。
2. 釣り、貝採りなどの狩猟生活をする。
3. 真水を作る。

⑤. 方法（いかにするか）

1. いかだを作る。
2. 潮流、釣りについて調べる。
3. 上流装置を作る。

⑥. 概算予算

一人あたり					
費用	交通費	食糧	備品火	消耗品費	その他
内容	ハイウェイカード	移動中の食事	釣り関係	写真など	予備
金額	2,500	1,000	800	500	2,200
内容	ガソリン	キャンプ中の食事	野営関係		
金額	1,500	2,000	1,500		
内容					
金額					
小計					
				合計	12,000

III. 装備

①グループの装備	
1	いかだの材料（タイヤチューブなど）
2	釣具
3	バーナー、ボンベ
4	鍋、炊事道具
5	ブルーシート
6	ポリタンク
7	食糧
8	食器洗い 1式
9	カメラ
10	救急道具
11	貝掘り道具と図鑑
12	ゴミ袋
13	ロープ類
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

②個人の装備	
1	一般的な個人装備品
2	水着
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

隊備品

備品係	承認5月9日	借用	8月8日
-----	--------	----	------

返却	8月15日
----	-------

IV. タイムスケジュール計画表

時間	8月11日(火)	8月12日(水)	8月13日(木)	8月14日(金)	8月15日(土)		
05:00							
06:00	集合 準備 スカウトOWN						
07:00							
08:00		貝採り 朝食 設営	貝採り 朝食 釣り 島の地図 海水浴	貝採り 朝食 釣り 海水浴	朝食 出発準備		
09:00							
10:00	出発 移動						対岸着
11:00							
12:00				昼食 広島発			
13:00		昼食	昼食	昼食			
14:00	移動	設営 島内散策 海水浴	釣り スケッチ 海水浴				
15:00	有竜島対岸 渡航						
16:00							
17:00					大阪着		
18:00	有竜島着 設営 夕食 海浜会議	貝採り 夕食 海浜会議 天体観測 夜釣り	貝採り 夕食 海浜会議 天体観測 夜釣り	貝採り 夕食 海浜会議			
19:00							
20:00							
21:00							
22:00	就寝 夜釣り	就寝 夜釣り	就寝 夜釣り	就寝 夜釣り			
23:00							
24:00							

V. 事前準備

①必要とする技能訓練	ある・なし
・ いかだ、貝の知識 ・ 潮流の知識 ・ 蒸留装置	

②指導を受ける無いようとインストラクターの要	ある・なし
・ 竹長さんに現地の情報を教えてもらう	

③必要とする事前調査の内容	ある・なし
・ 島の状況（地理、管理者など）	

④リーダーへの依頼事項	ある・なし
・ 全面参加	

⑤下見の実施など	
・ 別紙参照	

⑥その他	

VI. 安全対策

①創造される事故と予防策

項目	想定される事故	予防策
いかだ	・いかだの破壊 ・潮流に流される	・いかだを柔軟に強固にする ・内海よりに安全航行 ・万一の場合は漁船に連絡
野外生活	・けが	・救急法 ・竹長さんに連絡
炊事	・食中毒 ・食糧不足 ・水の不足	・生物、生水を飲まない ・非常食の準備 ・ポリタンに水を持参
活動中	・島の利用承認 ・緊急脱出方法	・竹長さんに現地の会議で承認をもらう ・竹長さんの親戚の応援

②キャンプ先の連絡について

期間	連絡先名称	電話番号	所在地住所
全日	島内：隊長（雲林院さん）	080-***-****	有竜島
	対岸：竹長さん	0848-**-****	広島県三原市
	団本部：団委員長（井上さん）	0726-**-****	大阪府茨木市

③緊急連絡先

場所	氏名	電話番号
島側		
陸側	上記に同じ	
団本部		

④訪問先県連への到着連絡、出発連絡

県連盟	担当者	電話番号	所在地住所
広島県連	津田 秀雄	082-***-****	広島市中区小町

98. 8VS隊夏キャンプの下見報告

BS隊 西村

4/10～11に欠きのタイムコースで8月の夏キャンプ候補地の下見を行なった

時刻	内容	費用	距離	その他
	4月10日			参加者：雲林院VS隊長
22:35	センター到着			雲林院VS副長
22:50	センター出発		0	近藤VS隊員
23:00	吹田IC（名神）			
	西宮	800		
	阪神高速	200		須磨料金所大混雑
	第2神明	100		
	加古川バイパス	200		
	4月11日			
	姫路バイパス	200		
	太子バイパス	200		
	2号線			
	山陽道：竜野西IC			
1:25	吉備SA		193	
6:40	吉備SA出発			
7:20	福山SA			
8:00	朝食			
	福山西IC	3,400		
	尾道バイパス			
9:00	忠海着			
9:55	忠海→大久野島	800		@200X4人
11:25	大久野島→忠海	800		
11:55	昼食（喫茶ボギー）		327	雨竜島について聞く
13:20	雨竜島対岸			写真撮影
14:00	尾道西IC		344	
15:40	竜野西SA		500	
16:30	竜野西SA発			
18:30	吹田IC（中国）	5,550		
18:30	センター着		612	
	ガソリン代	5,400		
		17,650		

1. 大久野島は国民休暇村で設備十分でCS／BVS向けであるBSもOK
ただ、距離が300Kmほどあり休息を含めると4時間はかかる。
2. 雨竜島は三原市幸崎町能地の対岸にあり、大変小さい島である。
喫茶ボギーのおばさんの話では
 - ・どんどんキャンプしてください
 - ・所有者は漁業組合であろう？
 - ・キャンプ中注意されたらボギーの親戚と言えば良い
 - ・ゴムボートでも泳いでも渡れる（昔は泳いで行った）
 - ・テントは砂浜で張れる。
3. ここでキャンプするなら所有者をはっきりさせ、許可を得てからすること。
台風時の対策を十分に考え、打てる手ダテは打つ事。
火は携帯コンロの使用を薦める。

ベンチャー隊夏キャンプ報告書

— サバイバル —

茨木8団ベンチャー隊

平成10年9月3日

1. 目的

なんら不自由のない日常生活の中で、もし地震が来たら、もし台風が来たら、もし津波が押し寄せたら、もし大火事に巻き込まれたら、もし断水したら、もし電気がこなくなったら、もしガスがストップしたら…など起こることもほとんど思わない事柄が起こったとき我々はどのような行動を起すだろう。

不自由のない日常生活から離れ、無人島でどのような生活ができるか体験しようと試みた。

2. 日時

平成10年8月11日(水)～8月15日(木)

3. 場所

広島県三原市能地 有竜島

4. 参加者

V S 隊 : 近藤議長、茨木

V S 隊長 : 雲林院

その他 : 西村

5. 日程

	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15
午前	9:00 センター前集合 10:00 出発	8:00 起床 釣り (ベラ 2、 コチ 1、カバル 1)	8:00 起床 釣り、貝拾い	8:00 起床 釣り、貝拾い	8:00 起床 9:00 撤営 10:00 現地発 (モーターボートで曳航 1 回)
午後	15:00 現地対岸到着 渡海準備作業 (筏、防水など) 19:00 有竜島着 (3 往復)	釣り 貝拾い	釣り、貝拾い 14:00 買出し (近藤、西村) 大雨	釣り、貝拾い	12:00 竹長さん宅へお礼の挨拶 12:30 出発 16:30 センター前到着
夜	釣り	海浜会議	海浜会議	海浜会議	

食事メニュー

	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15
午前		ご飯	ご飯	ご飯 スープ 野菜	ご飯 キムチ
午後	うどん、井各時 自由(吉備 SA)	ご飯	ご飯 貝の味噌汁	お餅	パン、おにぎり など各自
夜	カレーライス スープ	中華丼 コーンスープ 焼き魚(釣った)	カレーライス 野菜(キャベツ、トマト) キムチ、梅干	カレーライス サザエ 缶詰(缶、貝)	

詳細内容

6-1. 筏

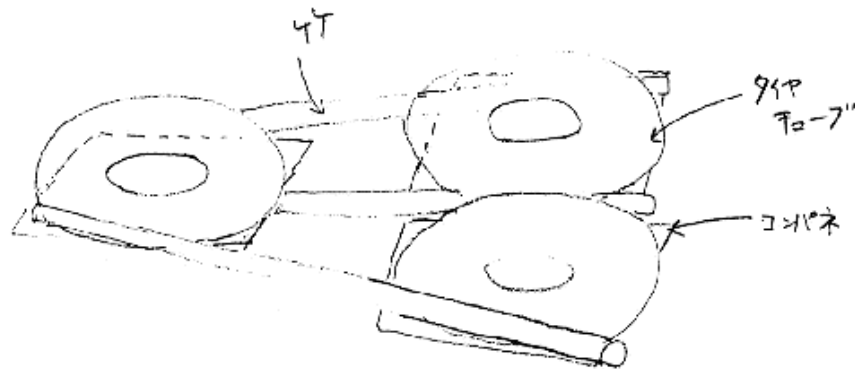
直径約1mのタイヤチューブを3個、竹(2m×3本)、簡易食卓台(1式)、ロープ数本を使用し下図のように製作した。さらにオールも4本製作した。

初日荷物を運搬するのに3往復した。特に1回目は水入りのポリタンクを運んだので大変重く有竜島に到着するのに4～50分を要した。あとの2往復は荷物も軽かったので20分程度で到着した。

最終日全ての荷物を1回で運搬した。初日同様かなりの重量があったため思うように進まなかったが、釣りをしていた親子連れのモーターボートに引っ張ってもらって対岸に着いた。10分程度と大変すかった。

筏の構造的には、タイヤチューブの下に間に食卓台のコンパネをひいたが海水が入る為他の備品防水(ポリ袋)をかなり嚴重にしなければならなかった。近藤、茨木隊員のザックが濡れ中の着替えなどが濡れてしまった。

タイヤチューブの上にもコンパネをひくと良いと思われる。その他下記のような構造のもので良いと考えられた。



6-2. 釣り

8/11 と中日 8/13 に釣具店でゴカイ(青虫)を購入。

雲林院隊長と近藤議長が釣竿それぞれ2本、1本 計3本を持ってきておりこれらで差かな釣を行った。

8/12 にベラ(20cm 2匹)、コチ(15cm 1匹)、小さい鯛の4匹でであった。

8/13 項入野ゴカイでは魚が警戒したのかまったく釣れなかった。自分の未熟さを身にしみた。

釣った魚は、近藤議長が塩焼きにして、大変美味しく頂けた。獺は全く少なかったが。

6-3. 貝拾い

釣具屋のおばさんに、さざえなどの話を聞きそれらについて検証してみた。

・女郎貝

砂浜に10cm程度の大きな貝がそれ程深くないところにいるとのこと。ひと昔みんなこぞって拾いに行き現在ではいるかどうかは?とのことであった。実際に干潮時にスコップで至るところを掘ったが、貝らしい一つも見つからなかった。

・ササエ

八畳岩(島の西側)付近のいわばに潜れば採れるとのこと。干潮時に岩の下などを探すと拳より少し小さいサザエを発見。8匹ほど獲得。醤油を垂らし、焼いたがこの上もなく美味であった。

6-4. 水

無人島には、真水がない。とりあえず料理と麦茶用に20Lのポリタンク3個の水を筏に乗せて持って行った。現地で海水から真水を作成しようと別紙の仕掛けを計画したが、結局しなかった。

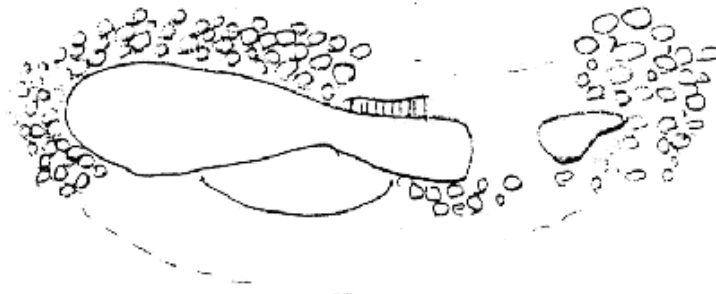
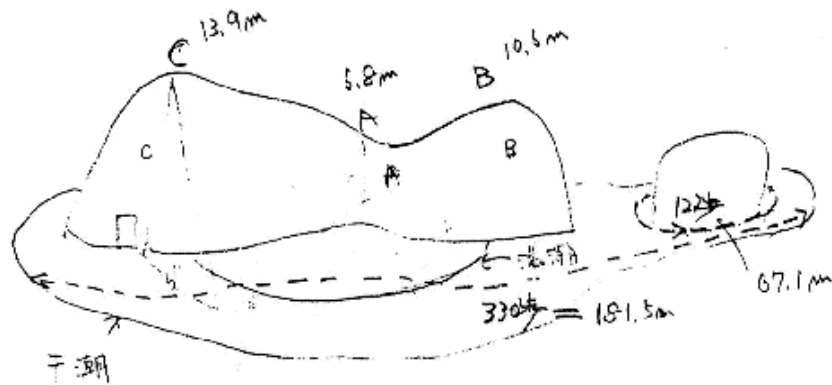
途中、さかなの餌と同時に見ずもポリタン1本分釣具屋三に頼んで頂いたが、結局最初から持ちこんだ60Lで料理とお茶の分は足りた。

一方、料理など以外に真水のない海辺での生活は、海風の影響で肌は常にベトベトしており、頭髮は手櫛を通さないほどガチガチになり、お風呂、シャワーが大変恋しく思えた。日常何気なく蛇口をひねるだけできれいな真水が出てくる生活をしている我々には、大変厳しいものであった。キャンプも4日目に入るとベトベトした肌にも慣れてきて、真水のない生活もできるかな？と少し思ったが、やはりこれはもうキャンプも終わりにかけて真水があと少しで戻ってくることが頭のどこかにあったためそう思ったと思う。真水のありがたさを痛感したキャンプである。

6-5. 有竜島の計測

歩測と簡易計測器にて測定した。

下図に簡単な地図を示す。



7. 会計

支出の部

月日	品名	購入先	金額	備考
8 / 9	備品	コーナン	5,684	
	食糧	ダイエー	7,884	
8 / 11	ハイウエーカード		10,000	吹田ー福山西
	昼食	吉備SA	2,000	@500×4人
	釣具、餌	おおうち釣具店	1,050	
8 / 15	昼食	コンビニ	2,000	@500×4人
	ガソリン		4,200	
			2,000	
8 / 20	写真		1,990	
		合計	42,863	

収入の部（費用）

スカウト	24,000-	(12,000-×2)
指導者	9,430-	(4,715×2)
団費	9,433-	
合計	42,863-	

8. その他（添付図を見る）

添付ファイルを見る事が出来ます。各項目をクリックして下さい。

[現地地図](#)

[写真](#)



[戻る](#)



戻 る

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	吹田地区	団・隊	吹田第4団
代表者名	木下 智	隊長名	山田
プロジェクト名	僕たちのサバイバルキャンプ		
目的	我々は“サバイバル”をキャンプ道具（テントや火器類：ランタン、ストーブなど）を使用せずにキャンプをすると定義し、現地での食料調達には重点を置いていない。そのため、食糧に関してはスーパーなどで買って持っていく事にした。このサバイバルの定義のもとに、我々は、テントを用いない露営を経験するというのと主食としてツイストパンを焼くというのを目的にした。		
挑戦アワード	高度な野外活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
木下 智	吹田4団	チーフ	
山本 太郎	〃	マネージャー	
活動期間	平成10年3月22日 から 平成10年6月21日		
活動場所	兵庫県神戸市北区天保池		
活動の概要			
添付書類			

— 僕たちのサバイバルキャンプ —

吹田4 団ヴェンチャー隊 木下智・山本太郎

【プロジェクト名】		僕たちのサバイバルキャンプ	
【目的】		我々は“サバイバル”をキャンプ道具（テントや火器類：ランタン、ストーブなど）を使用せずにキャンプをすると定義し、現地での食料調達には重点を置いていない。そのため、食糧に関してはスーパーなどで買って持っていく事にした。このサバイバルの定義のもとに、我々は、テントを用いない露営を経験するというのと主食としてツイストパンを焼くというのを目的にした。	
【個人別課題】	参加者氏名	木下 智	山本 太郎
	挑戦分野	高度な野外活動	高度な野外活動
	活動内容	企画書、計画書の作成 プログラムの作成	キャンプ地の下見 献立、予算を決める
	活動方法	家でコンピューターを使う。 太郎とミーティングの場を持つ。	BS 隊のキャンプに同行する。スーパーなどで材料を見える。
	役割	チーフ	マネージャー
【期間】		実施展開：平成10年5月3日から 平成10年5月5日 プロジェクト全体期間：平成10年3月22日から 平成10年6月21日	
【活動場所】		兵庫県神戸市北区天保池 （選択理由：都会の便利なところから、離れていて、何も無いため）	
【予算】		交通費	4,360 円
		食費	2,290 円
		備品費	5,000 円
		計	11,650 円
【収入の部】		個人負担	5,825 円
		隊費	0 円
		計	5,825 円
【プロジェクト実施に必要な技能知識】		ロープワーク	
【予想される障害】		1.虫害など	2.日射病 3.ケガ

【プロジェクトを振り返って】

僕たちのサバイバルキャンプを計画する事になったきっかけや、プロジェクト実行段階を振り返ってみた。(99. 8. 14、ガスト江坂店にて)

木下 (以下、木) : こんにちは。吹田4 団ヴェンチャー隊の木下 智です。

太郎 (以下、太) : こんにちは。同じく吹田4 団ヴェンチャー隊の山本 太郎です。

木: 太郎、俺達の今回のプロジェクトを始めるきっかけって、なんやった?

太: 僕がボーイの隊キャンプに、上班として付いていった時に、ちょうどいい場所があり、何かできないかと思い、木下君に相談してみた。

木: そうやな。それで、今回のプロジェクトを活かして、これから、移動キャンプの比率を高められるように、あと、ビバークに対する苦手意識があったので、それを克服するために今回のプロジェクトを作ったよな。

太: うん。

木: ところで、このプロジェクトの個人個人の目標は、なんやった。俺は、ビバークにおける快適な寝床の研究を目標としたで。で、太郎は?

太: えっと... 僕は、炊具のない状態でも主食を確保できるように、ツイストパンの作成を試みる事を目標とした。

木: このプロジェクトを計画、準備するのにだいたいどれくらいかかった?

太: だいたい、1 ヶ月ぐらい。毎週日曜日に集会をして、計画書をつくったり、これからの予定を決めた。

木: この時、苦労した事は?

太: 別にないけど、団倉庫を管理している北村さんとの連絡が上手く取れていなかったで、団倉庫から道具を取るのが少し遅れてしまった。

木: 俺は、計画書を作るのが苦労したよな。いい訳かもしれないが、結構学校とか忙しいから、書類を作成するのがしんどいわ。

太: それはいえてる。でも、早いうちから、計画書などの書類を作るほうが楽でよかったと思うわ。

木: そうやねんけど、それがほんまに難しい。ま、計画の事はこの辺でおいといて、実施について話そう。

太: 今回のキャンプは疲れたの一言に尽きるわ。

木: そうやな。具体的に言ったら、どの辺が疲れた?

太: バス停からキャンプサイトまで歩いた時、もっていった食料や荷物が重すぎて、予定していた時間よりかかったし、かなり体力の消耗が早かった。それが一番しんどかったわ。

木: キャンプサイトについた時は、ほんとにうれしかった。次のページにある写真がその時に取った写真だが、2 人とも本当にすがすがしい顔をしていると思う。



太：はじめに、かなり疲れたから、それがずっと続いてしまったよな。でも、飯は、レトルトが多かったけど、自分達で作ったカレーはめっちゃうまかった。

木：カレーは、うまかったけど、ツイストは失敗に終わったよな。

太：水分が多すぎた。

木：一日目に、ツイストを作ったけど、水分が多すぎて、なかなか生地ができなくて、焼くのに、時間がかかり、寝るのが遅くなったな。これも、疲れる原因の一つやで。

太：水分の加減が大切だと分かって、失敗してよかったんじゃない。

木：そうやけどな。

太：少し話しは、変わるが、このキャンプで、ほんまに薪拾いしたよな。

木：かなりな。薪拾いの大切さを、再認識させられたキャンプやったわ。

太：次にビバークについて、話そうや。

木：一日目の寝床は、悲惨やったな。森の中で木を利用して、ブルーシートをはって作ったけど、風は入るは、寒いし、ええとこなかった。

太：後、少し傾斜のあるところに作ったから、寝づらかった。

木：でも、2日目に作り変えた分はよかったよな。

太：うん。風も入らないし、結構カッコよかったし。

木：ちょっとこの辺で、2枚目の写真をみせるわ。このキャンプ中に作業していたところやな。



太：木下君、結構いい感じで写っているんちゃう。

木：ありがとう。だいたい、俺達のプロジェクトはこんな感じやな。

太：うん。でも、このプロジェクトを評価してくれた隊長には、感謝してるわ。

木：そうやな。はじめは、アワードをもらう実感がなかったが、このプロジェクトを計画、実行したら、隊長が評価してくれて、結果、アワードをもらう事になった。目標を達成して、評価してもらうのは、本当にうれしい事と思った。これからも、評価してもらえなら、新たにもっとプロジェクトを組んで、挑戦していきたいよな。

太：な、な、最後に、隊長やったジャンさんに話してもらおうや！

木：そうやな。それでは、どうぞ。

ジャンさん（山田隊長）：

今回のプロジェクトについても、事前にいろいろな想定をしていたが、計画を実行してみても一層、事前のプロセスが大事だという事が実感できたと思う。

隊長が日頃の集会で言っていたように、結果は良しとして“プロセスを大事にしてネ”という言葉の意味をもう一度考え、自分の為にも、また、後輩たちの為にも、これからの活動に活かしてほしいと思います。

今後のベンチャー隊の活動に期待しています。

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	大阪連盟東阪地区	団・隊	東大阪第3団 ベンチャースカウト
代表者名	吉岡 扶矩	隊長名	藤井 信行
プロジェクト名	白馬岳を歩く		
目的	3000m級の山からの眺めの体験と、移動キャンプの楽しさを実感する。		
挑戦アワード	1.社会・地球環境 2.国際文化 3.高度な野外活動 4.体力作り 5.分化活動 6.専門分野、得意分野の探求 7.奉仕活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
中村 健一郎	東大阪3団	チーフ	
浜崎 一秀	//	マネージャー	
秋山 光士	//		
小池 進	//		
活動期間	平成10年4月10日～8月30日		
活動場所	生駒山系、白馬三山		
活動の概要	岩場を登る訓練（ロッククライミング） 手早く出来る料理の探求 白馬岳移動キャンプ		
添付書類	1. 概要 2. 企画書 3. 計画書 4. 日誌 5. 報告書 6. 感想		

Golden Award '99

白馬岳を歩く

(3) 高度な野外活動

東阪地区
東大阪第3団 VS

1. プロジェクトチーフ：吉岡 扶矩
 2. プロジェクト承認：隊長 藤井 信行
 3. プロジェクト単位：グループプロジェクト
 4. プロジェクトの目的：3,000メートル級の山からの眺めの体験と、移動キャンプの楽しさを実感する。
 5. プロジェクトの目標：未体験部分の克服
 - ・15kgの重量を背負っての歩行訓練
 - ・手早くする料理研究
 - ・体力づくり
 6. プロジェクトメンバー：チーフ 吉岡 扶矩 秋山 光士
マネージャー 浜崎 一秀 小池 進
 7. 場所：生駒山系・白馬三山
 8. 期間：平成10年4月10日～8月30日
 9. 内容：岩場を登る訓練（ロッククライミング）・荷重（15kg）の歩行訓練
手早く出来る料理探求
 10. 挑戦アワード：（3）高度な野外活動
 11. 条件 E 技能の開発向上
 12. スケジュール
- | | | |
|------|-----------|----------------------------------|
| 4/10 | 企画書作成 | |
| 4/18 | 第1回会議 | 参考資料持ち寄り・計画書（1）作成 |
| 5/4 | （1）実施 | |
| 5/16 | 第2回会議 | 白馬岳資料・（1）反省・計画書（2・3）作成 |
| 5/24 | （2）実施 | |
| 6/14 | （3）実施 | |
| 6/20 | 第3回会議 | 道具・予算¥25000・（2）（3）反省
計画書（4）作成 |
| 6/27 | 保護者集会 | 詳細説明 |
| 6/28 | （4）実施 | |
| 7/11 | 第4回会議 | 最終打ち合わせ |
| 7/24 | 白馬岳出発 | |
| 8/8 | 第5回会議 | 移動キャンプ反省 |
| 8/12 | 団合同夏季キャンプ | |
| 8/29 | 反省会 | |

企画書

プロジェクト名：白馬岳を歩く

挑戦分野：高度な野外活動

目的：初めてのベンチャー隊になって、この夏何かしたいと皆で話し合っているうちに7月のカレンダーには高山植物の美しい写真が目についた。そうだ、移動キャンプでこの写真が載っている山に行こう。

プロジェクト活動期間：平成10年4月10日～8月30日

計画書完成：平成10年4月30日

実施展開：平成10年7月末日

報告書完成：平成10年8月30日

活動場所：白馬岳（コースについては計画書で表示）

参加者：吉岡・小池・浜崎・秋山

予算：2万円から3万円まで

資金捻出方法：アルバイトと親から、団からの援助も期待

隊長コメント：初めての移動キャンプ、それも2千メートルを超える山。誰もが簡単に行けるとは考えられず、山岳会員の松村さんとよく相談をし、このプロジェクトが無事終了することに期待する。

東大阪第3団 ベンチャー隊 隊長 藤井 信行

計画書

訓練内容 1. 平成10年5月4日～5日 1泊2日

六甲蓬莱峡にてロッククライミング訓練・軽アイゼン装着・歩行訓練

2. 平成10年5月24日（ハイク）

団本部～石切神社上の宮～辻子谷コース～興法寺～府民の森ぬかた園地～摂河泉コース～枚岡公園～額田駅

3. 平成10年6月14日（15kgハイク）

額田駅～枚岡公園～府民の森ぬかた園地～生駒山上遊園地（往復）

4. 平成10年6月28日（15kgハイク）

瓢箪山駅～大池公園～鳴川峠～府民の森なるかわ園地～ぼくらの広場～神津嶽コース～枚岡駅

5. 平成10年7月11日～12日 1泊2日

団本部にて山の食料品での試食会

6. 平成10年7月24日～7月27日 3泊4日

白馬岳を歩く

役割：1～5までは担当を決め計画書、報告書を作成のこと 1＝吉岡 2＝小池

3＝秋山 4＝浜崎 5＝吉岡 チーフ：吉岡 会計：秋山 交通：小池

安全衛生：浜崎 備品調達：吉岡 食料品調達：浜崎

隊長コメント：企画から計画に入ってきました。山岳会員の松村氏の話聞くのも真剣になってきました。一つ一つを十分に吸収し、頑張って目的を果たしてください。

東大阪第3団 ベンチャー隊 隊長 藤井 信行

計画書（１）

報告書（１）

計画書（２）

報告書（２）

計画書（３）

報告書（３）

計画書（４）

報告書（４）

計画書（５）

報告書（５）

実施要項

実施日時・隊長雑感・参加費・地図・日程表・登山装備表・注意事項
正しく背負うためのフィッティング講座・予算見積

報告書

隊長コメント

昨年9月より高校入試のため、その目的達成のためほとんど活動らしきものはなかったし、4月にベンチャー会議でこの計画が出されました。当初無理を承知で承認しましたが、活動を進めていくたびにスカウトの顔がすばらしく見えてきました。何か目的を持ち、その目標に向かって進むということはすばらしいことだとスカウトに教えられた気がします。分担に分かれ自分のこと、人のことの出来るチームワークもすばらしくスムーズに運べました。白馬での成果は松村氏の援助があつてのものと思いますが、山に感謝するとともに松村氏にもお礼を忘れずに。企画・計画・反省の積み重ねがこのすばらしい白馬での時が過ごせたものと思います。私は自分の体力を考え鑓ヶ岳より鑓温泉經由猿倉へコース変更しましたが、山での決断は勇気が要りますが、それも大事なことです。

活動内容

会計報告

評価と反省：朝昼夜と食事準備が出来て移動キャンプが出来た計画が欲しい。今回はドライフーズが非常によかった。理由：コップ1杯の水で調理が出来たことは、水の節約に役立つ。ゴミが出ない（冷凍用ビニル袋に入れ替えて持っていくと便利）食量も十分だった。ガスも少量で済む。移動食について、あまずっぱいキャンデーを口に入れて歩くと、気分も変わり少しバテ気味の時によい。クラッカーなどのパサパサするのは水がないと、のどを通らないのでよくない。クッキーやフルーツケーキなんかも一息入れるときに手早く食べられてよい。山では歯磨きが自由に出来ないのが普通だから、歯磨きガムも重宝した。スポーツドリンクよりも麦茶がよいように思う。果物はドライフーズで十分だ。コースでは非常にしんどかったが、大雪溪ではペンキマーカで歩くコースが決められていたから良かった。（雪溪上赤いベニガラがまかれている）よく見ると登山者が歩いている部分の岩は他の岩よりはっきり色が違っていたり、角がとれていたりするので、それもコースかどうかの判断材料になる。でもスカウトだけでは登山は無理。インストラクター松村氏が先導されて安心して登山が出来た。天気の急変には驚いた。岩場でのテントペグは十分にしなければ、予想外の風に悩まされた。予算は十分に取ったが結果不足した。タクシーの運転手にだまされた。4人だとバス代と一緒に言ったが高くつく。最後のリフト・ゴンドラが意外と高くついた。白馬までもう少し安く行けたらよいと思う。結果：十分なトレーニングを積み白馬に行ったが、行動中は誰もがしんどかった。高山病らしき頭痛にも悩まされた。目的を高山植物に限定し、図鑑を持ってトレッキングするもよし、でも、すばらしい山、高山植物、大雪溪と経験させていただきありがとうございます。次の計画もやはり白馬になるかも……。

感想：白馬移動キャンプ感想」吉岡 扶矩

今年の夏は、僕がベンチャー隊に上進して初めての移動キャンプに行きました。カブ隊にいた頃から、「シニア隊の移動キャンプはしんどい」といううわさを耳にすることがあったので、「ああしんどいのか、いややなあ」と思っていました。行ってみると、期待を裏切らないしんどさでした。どのくらいしんどいかというと、清水の舞台から飛び降りて首の骨を折って死んで、輪廻してしまうくらいの勢いでしんどかったということです。荷物は重いし、道は最強に荒いし、距離も異常な長さだし、よく耐え切れたなあと思います。とまあ、しんどかった出来事を淡々と述べたわけですが、思い出してみると、やっぱりいいキャンプだったなあという感じです。何がどおして、と言うのではないけれど、全体を通じて味わった充実感というものは、なかなか体験できない貴重なものだったと思っています。景色も空気もすばらしい北アルプスの山で3日間、大自然を楽しめたことも大変ぜいたくな体験だったと思っています。細かい出来事は省きますが、この文を読めば、僕の得たものは理解できるでしょう。この貴重な体験をさせてくれたベンチャー隊のリーダー、インストラクターそしてアルプスの山々と自分の足に感謝したいと思います。

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	南東地区	団・隊	大阪1団
代表者名	桜井 信吾	隊長名	森 英樹
プロジェクト	淡路島一周サイクリング耐久移動キャンプ		
目的	淡路島を3泊4日で一周する プールで見につけた技能を行う		
挑戦アワード	3.高度な野外活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
桜井信吾	大阪一団	チーフ	
植田庸介	//	マネージャー	
後藤 怜	//	メンバー	
西本健太郎	//		
鳥倉一人	//		
活動期間	平成10年8月11日～8月14日		
活動場所	淡路島		
活動の概要	3泊4日淡路島一周サイクリングを夏季移動や営野営として行う		
添付書類	企画書 計画書 報告書		

企 画 書

プロジェクト テーマ名	淡路島一周サイクリング耐久移動キャンプ
----------------	---------------------

所 属	大阪連盟 南東地区 大阪第 1 団ベンチャースカウト隊
作 成 者	後藤 怜

プロジェクト メンバー	氏名	役割
	桜井 信吾	チーフ
	植田 庸介	マネージャー
	後藤 怜	

隊運営会議 承認	平成10年 6月17日 (水)
----------	-----------------

議長	中村	会計	比良	書記	後藤	備品	村上
----	----	----	----	----	----	----	----

隊スタッフのコメント 各自目標を明確にして計画すること。

隊長のコメント ・健康管理はどうすれば良いか ・装備の工夫、自転車の整備 ・期間を通して、自分の目標は何か 以上検討に時間をかけて必ず達成すること。
--

企 画 (計画の概要)

目 的 自分のやりたい事 なぜ・何の為に	・淡路島を3泊4日で一周する ・プールで見につけた技能を行なうため			
活動内容 どの程度まで 何をどのように	・自転車を使って淡路島を一周する。 ・目的地を定め目標期間にキャンプ場へ着く			
参 加 者 (活動チーム) ◎チーフ ○マネージャー	氏 名	◎桜井 信吾	氏 名	◎西本 健太郎
	氏 名	○植田 庸介	氏 名	○鳥倉 一人
	氏 名	後藤 怜	氏 名	
	氏 名		氏 名	
	氏 名		氏 名	
	氏 名		氏 名	
活動場所	淡路島			
期 間 (メインテーマ の実施時期何日 くらいか)	平成10年8月11日～8月14日			

企 画

プロジェクト名 (ネーミング)	自転車で淡路島を一周	
挑戦分野 (7つの分野)	高度な野外活動 役割	隊長コメント 生活意識の高揚：自転車の交通手段としての 技能の開発向上：200kmの体力、水泳訓練
目 的 実施したい 内容及び方法	・ 自転車で淡路島を一周する ・ プールで見につけた技能を行う	
プロジェクト 活動期間	期 間	平成10年 8月11日 ～ 8月14日
	①計画書完成	平成10年 8月10日 迄
	②実施展開	平成10年 8月11日 ～ 8月14日
	③報告書完成	平成10年 9月 6日 迄
活動場所	淡路島	
プロジェクトの 参加者別テーマ	氏 名	個 人 テ ー マ
	後藤 怜	日射病にならない
		へばらない
		水をあまりの飲まない
予算	概算予算 ￥10,000－ 資金捻出方法 親から借りた (個人で調達する方法はないか？ 隊長)	

計 画 書

プロジェクト テーマ名	大阪第1団ベンチャー隊 夏季長期移動野営	
挑戦アワード	高度な野外活動（サイクリングによる移動キャンプ）	
プロジェクト 活動期間	全 体 期 間	平成10年 8月11日（火） ～ 8月14日（金）
	出発日時	平成10年 8月11日（火） 9時00分
	集合場所	スカウトの巣
	帰着日時	平成10年 8月14日（金） 5時00分
	帰着場所	スカウトの巣
目的地 （主プロジェクト 実施地）	淡路島一周（150Km）、大阪－西宮間往復50Km	

所 属	大阪連盟 南東地区 大阪第 1 団ベンチャースカウト隊									
チーム名	ベンチャーサイクリング Aチーム、Bチーム									
プロジェクト メンバー	氏名				役割					
	森 英樹				隊長 [総括]					
	(A) チーム				チーフ マネージャー 参加リーダー					
	桜井 信吾									
	植田 庸介									
	後藤 怜									
	野田 雄介				参加リーダー					
	(B) チーム				チーフ マネージャー 参加リーダー					
西本 健太郎										
鳥倉 一人										
間 宣文										

承認

平成10年 8月10日 VS隊会議にて

議長	中村	会計	比良	書記	後藤	備品	村上	隊長	森
----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

1. プロジェクト推進計画

①企画書の承認 平成10年 6月17日（水） 隊運営会議にて

②メンバーの会合・打合せ内容（計画書作成迄）

10年6月20日（土） 企画書（作成済み）を基に計画案

10年6月27（土）～28（日） 淡路島下見 （隊長）

10年7月 1日（水） 下見報告、交通手段、事前研修設定

10年7月 7日（火） 団会議にて団の承認を得る

10年7月11日（土） 育成会総会にて概要説明（父兄対象）

10年8月 8日（土） 大阪ー西宮間のコース最終点検、下見

10年8月10日（月） 参加者最終打合せ、計画書完成

③プロジェクト推進役割分担

誰が何を するか	氏 名	担 当
	桜井	議長（安全）
	西本	書記
	植田	会計
	鳥倉	会計
	後藤	備品

④プロジェクト推進にあたってのインストラクターの要請

氏 名	現在の団内役務・外部	お願いする内容
森	V S 隊長	現地下見、備品（テント）購入
野田、間	V S 副長	・事前研修消化補助 ・キャンプ当日伴走（安全管理）

2. プロジェクト計画内容

プロジェクト名	ベンチャー隊サイクリング移動野営
テーマ (何をするか)	・サイクリングにより全行程200Km走破 ・海水浴場にて水泳救助訓練 ・3泊目野営地の選定（キャンプ場を除く）
目的 (何の為に)	・持久力を養う ・プールで身につけた水泳技能を海にて強化 ・現地の人々に接し、自らの情報収集、交渉能力強化
内容 (どんな事をするか)	・期間中、毎朝その日1日のコース選定とタイムスケジュールを決定し実行 ・水泳章、溺者救助章の再確認 ・チームの各人別に情報収集項目を設定（食料調達、野営可能地など）
方法 (いかにするか)	・一般家庭用自転車に3泊4日の個人装備を載せ、全行程走行 ・調達容易な身の回り品を用いて救助法の確認 ・地図に基づき行動範囲を設定し、時間内にソロ活動で収集

概算予算

(1人当り)

費目	交通費	食費	備品費	消耗品費	その他
内 容	甲子園フェリー		テント2張り		吹上浜 キャンプ場代
金 額	@3,100	@5000	74,000	@725	大人@'500 テント @400 4800/8=@600
内 容			バーナー カートリッジ		慶野松原 キャンプ場代
金 額			4,600		大人@200 テント @1,500 4600/8=@570
内 容			地形図		
金 額			6,000		
内 容					
金 額					
小 計	@3,100X8人	@5,000X8人	-----	@725X8人	@1175X8人

◎備品費は隊費で充当
◎食費に着いては10食分

合 計 80,000(8人)

3. 準 備 品 (装備等)

グループの装備			個人の装備				
No	品名	担当	No	衣	食	住	その他
1	ダンロップテント大	後藤	1	制服	水筒	シェラフ	登録証
2	①テントのポール、ペグ	植田	2	Tシャツ	アルミ食器	ロールマット	保険証写し
3	ダンロップテント小	西本	3	半ズボン	5 徳	懐中電灯	防虫スプレー
4	③テントのポール、ペグ	鳥倉	4	長ズボン	マッチ	予備電池	常備薬
5	コップ、まな板、包丁	桜井	5	ウインドブレーカー	米 5 合	ナイフ	裁縫セット
6	バーナー2個	植田 鳥倉	6	下着	缶詰 3 個	ロープ	日焼け止め
7	バーナーカートリッジ 6 個	リーダー	7	ソックス	カップスープ	バスタオル	新聞紙
8	ランタン 2 個	植田 鳥倉	8	帽子	ビスケット	タオル	トイレトイペーパー
9			9	はんかち	あめ	洗面用具	雑巾
10	カメラ	リーダー	10	軍手	ハットボトル		シルバークンパス
11	自転車修理道具、空気入れ	リーダー	11	靴			デイバック
12			12	水着			ビニール袋
13			13	雨具			地図
14			14	ウェストポーチ			金
15			15				
16			16				

隊備品の利用は隊スタッフ「備品係」の了承を得る。

借用日 年 月 日 備品係 _____ 印

返却日 年 月 日 備品係 _____ 印

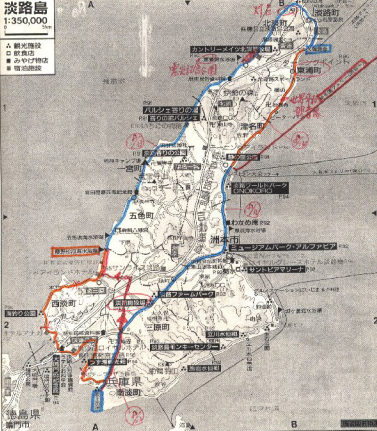
[illegible]

タイム	8月11日(火)	8月12日(水)	8月13日(木)	8月14日(金)	タイム
6:00			起床、洗面、朝礼	起床、洗面、朝礼	6:00
7:00		起床、洗面、朝礼	朝食	朝食	7:00
8:00		撤営	撤営	撤営	8:00
9:00	30 スカウトの巣集合(開会式) スカウトの巣出発	吹上浜キャンプ場発	慶野松原キャンプ場発	大磯発	9:00
10:00	↓ 行程25Km 2時間30分	↓ 行程30Km	↓ 途中資料館見学	↓	10:00
11:00	30 ↓ 西宮港着			津名港着	11:00
12:00	20 昼食 フェリー発	↓ 慶野松原キャンプ場着	昼食	10 フェリー発	12:00
13:00	↓ 甲子園フェリー 1時間55分	昼食	↓	↓ 甲子園フェリー 1時間55分	13:00
14:00	15 ↓ 津名港着	設営		5 ↓ 西宮港着、昼食	14:00
15:00	↓ 行程40Km 途中淡路島牧場 にて乳絞り体験	昼寝	江崎灯台	30 出発	15:00
16:00		海水浴	↓		16:00
17:00		食料買出し	大磯着 設営	スカウトの巣着(閉会式) 隊備品収納後解散	17:00
18:00	↓				18:00
19:00	吹上浜キャンプ場着	夕食	夕食		19:00
20:00	設営 夕食	夜のつどい			20:00
21:00	反省、予定確認	反省、予定確認	反省、予定確認		21:00
22:00	消灯 L点検	消灯 L点検	消灯 L点検		22:00
23:00					23:00

淡路島

1:350,000
0 5km

- ▲ 観光施設
- 飲食店
- みやげ物店
- 宿泊施設



徳島県
徳島市

徳島県
徳島市

5. 事 前 準 備

項目	準備過程と内容について
必要とする 技能訓練	ある・なし
	内容 ・自転車の整備、簡単な故障修理の知識を習得 ・水泳章、溺者救助章の取得（7/19審査会に合格する）
指導を受ける内容と インストラクター要請	ある・なし
必要とする 事前調査の内容	ある・なし
	内容・キャンプ場の確保 ・コースの選定 ・病院、自転車修理屋の確認 } 下見にて確認
リーダーグループへの 依頼、連絡事項	ある・なし
	内容・備品の確保、テント2張購入
下見の実施など	6/27 淡路島一周コースの選定下見実施
	8/ 8 大阪ー西宮間のコース選定下見実施
その他	水泳章：後藤、鳥倉、西本 取得済み
	溺者救助章：桜井、植田、鳥倉、西本 7/19参加

6. 安全対策

	想定される事故	予防策
移動中	自転車の故障 ①パンクなどの軽い故障 ②チェーン切れ、ブレーキワイア切れ	出発前整備を行う→期間中故障の時 応急修理をスカウト・リーダーにて行う ＊走行不可能な場合隊長判断によりリタイヤ
野営生活	軽微外傷 頭痛 腰痛 日射病 熱射病	出発前に規則正しい生活（食事・睡眠）に心掛ける。 ↓ 個本的には各自常備薬で対応 外傷、日射病等については応急処置 ↓ 重度の場合は病院手配 期間中帰阪も考慮（隊長判断）
炊事		
活動中		

＊不慮の事故、火災予防、水難予防等対策を記入する

■キャンプ先の連絡について

日付	宿泊先名	連絡先電話	場所
1 1～1 2	吹上浜キャンプ場	0799-55-0948	南淡町阿万吹上
1 2～1 3	慶野松原キャンプ場	0799-36-4079	西淡町松帆
1 3～1 4	大磯キャンプ場	080-**-*****（隊長携帯）	

■緊急連絡先

	氏名	連絡先電話
団委員長	山岡 文雄	06-***-****
団本部	石橋 善晴	06-***-****
スカウト家庭	後藤	06-***-****
	桜井	06-***-****
	鳥倉	06-***-****
	西本	06-***-****
	植田	06-***-****

■訪問先県連への到着連絡報告

県連	住所	電話
兵庫	神戸市中央区川崎町 1－1－3 神戸ハーバーランド 神戸クリスタルタワー	078-360-8570

7. 献立表

予算／決算		8月11日（火）	8月12日（水）	8月13日（木）	8月14日（金）	備 考
朝食	献立		ご飯、味噌汁	ご飯、味噌汁	ご飯、味噌汁	
	材料明細					
	金額					
昼食	献立	外食(フリー)	ソーメン、缶詰	チャーハン	外食(フリー)	
	材料明細	カツ丼 カレー等				
	金額					
間食	材料明細	あめ	あめ	あめ	あめ	
	金額					
夕食	献立	ご飯、カップ麺	缶詰	缶詰		
	材料明細					
	金額					
夜食	材料明細					
	金額					
非常食	材料明細	ビスケット カップジュース	ビスケット カップジュース	ビスケット カップジュース		
	金額					
合計		1,000－	1,500－	1,500－	1,000－	
総合計		5,000－				

注1. 米5合、缶詰3個、カップスープ粉末、ビスケット、あめ、ペットボトルは個人装備

注2. 各自設定金額以内で自己調達

報 告 書

プロジェクト テーマ名	大阪第1団ベンチャー隊 夏季長期移動野営		
挑戦アワード	高度な野外活動（サイクリングによる移動キャンプ）		
プロジェクト 活動期間	全 体 期 間	平成10年 8月11日（火） ～ 8月14日（金）	
	出発日時	平成10年 8月11日（火） 9時00分	
	集合場所	スカウトの巣	
	帰着日時	平成10年 8月14日（金） 5時00分	
	帰着場所	スカウトの巣	
目的地 （主プロジェクト 実施地）	淡路島		

所 属	大阪連盟 南東地区 大阪第 1 団ベンチャースカウト隊																		
チーム名	ベンチャーサイクリング Aチーム、Bチーム																		
プロジェクト メンバー	氏名				役割														
	森 英樹				隊長 [総括]														
	(A) チーム																		
	桜井 信吾				チーフ														
	植田 庸介				マネージャー														
	後藤 怜																		
	野田 雄介				参加リーダー														
	(B) チーム																		
	西本 健太郎				チーフ														
	鳥倉 一人				マネージャー														
間 宣文				参加リーダー															
隊会議報告 平成10年 月 日 VS隊会議にて																			
議長				会計				書記				備品				隊長		森	

1. 行動記録のまとめ

月日	8月11日（火）	8月12日（水）	8月13日（木）	8月14日（金）
天気	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
移動手段 移動距離	自転車 6 5 Km	自転車 3 0 Km	自転車 5 5 Km	自転車 5 0 Km
主な活動内容	自転車で走る フェリーに乗る キャンプ場で泊まる	キャンプ場で泊まる 海に入って泳ぐ 昼食を外で食べる	キャンプ場を探して泊まる 風呂屋を探して入る 灯台に行く	観音像を見る事 フェリーに乗る 巣に帰る
達成内容と 成功内容	淡路島牧場に行った事 花火が出来た	海に入れた事	風呂に入れた 予定より早く目的地へ 到着できた 道に迷わなかった	
成功理由 もっと大きな 成功を得るには どうすべきか	Bチームが花火を 買ってくれたこと		地図をよく見ていたから	
失敗した事	時間通りにキャンプ場へ 行けなかった 乳絞りが出来なかった	道が少し判らなかった	フェニックスパークへ行っても 中に入れなかった	観音像の中に入れなかった
失敗原因	安全に行こうとして地図を 丹念に見ていた為 休憩を多く取った事	地図をよく見て いなかった	入場料が高い	入場料が高い
その場の対応				
今後の対策	出発の前に地図をよく 見ておく事	出発の前に地図をよく 見ておく事	始めから泊まる場所を 決めておく	特に無し

4. タイムスケジュール							
タイム	8月11日（火）		8月12日（水）		8月13日（木）		タイム
6:00							6:00
7:00			30 起床、洗面、朝礼		0 起床、洗面、朝礼		0 起床
8:00			45 朝食		15 朝食		30 朝食
			10 撤営		50 撤営		0 撤営
9:00	30 スカウトの巣集合（開会式）		40 吹上浜キャンプ場発		0 慶野松原キャンプ場発		0 塩浜公園発
	↓		↓		↓		↓
10:00	行程25Km 2時間30分		行程30Km				0 観音像着
11:00	50 西宮港着						20 観音増発
							40 津名港着
12:00	昼食		30 慶野松原キャンプ場着		↓		30 フェリー発
	20 フェリー発		40 設営		0 フェニックスパーク着		↓
13:00	↓ 甲子園フェリー 1時間55分		25 海水浴		45 フェニックスパーク発		↓
14:00	5 津名港着				↓		25 西宮港着、昼食
	10 津名港発				0 江崎灯台着		30 出発
15:00	↓				30 江崎灯台発		↓
16:00	15 淡路島牧場着				↓		↓
	45 淡路島牧場発				0 塩浜公園着		スカウトの巣着(閉会式)
17:00	↓				15 設営		隊備品収納後解散
18:00	↓		30 夕食		0 夕食		
19:00	吹上浜キャンプ場着				40 風呂		
	10 設営						
20:00	7:35 夕食				帰着		
21:00	反省、予定確認		反省、予定確認		反省、予定確認		
22:00	消灯		消灯		消灯		
23:00							

[illegible]

3. プロジェクト実施費用

支出結果

(1人当たり)

費目	交通費	食費	備品費	消耗品費	その他
内 容	甲子園フェリー	ごはん	なし	なし	水
金 額	1,550	200			1450
内 容	なし	カレー	なし	なし	水
金 額		550			1590
内 容	なし	やきそば	なし	なし	水、風呂
金 額		400			1,511
内 容	甲子園フェリー	ざるうどん	なし	なし	なし
金 額	1,550	550			
小 計	3,100	1,700	0	0	5,051
			合 計	9,851	
計画予算 10,000			支出結果 9,851		
反省評価 飲料水に使いすぎたので少し控えめにする。					

4. プロジェクト実施記録

8月11日

淡路島にサイクリング（高度な野外活動）をやりに行った。

まず、大阪から西宮に行くまでが非常に長かった。

そして、フェリー乗り場に到着して西宮から淡路島へ行った。

1日目は60Km走行した。

上りの坂道はとてもしんどく何回も休憩したが何とかキャンプ場へ着いた

8月12日

キャンプ場を出て少し道に迷いかけた。しかし地元の人に道を聞き2日目のキャンプ場に到着した

この日は30Km走行した

海水浴をする予定だった。しかし、その前に体力を回復するため昼寝を行った。

そして、海水浴を2～3時間遊んで帰った。

シャワーをしてから買出しをして夕食をした。その日の夜は楽しかった。

8月13日

キャンプ場を出る前に森さんがジュース大を渡して私と鳥倉が買いに行った。

私は何でも良かったが鳥倉のバカが全部なっちゃんを買ってしまった。

そして飲んでから出発した。

最初にフェニックスパークに行き灯台に行った。

そしてキャンプ場に行こうとしたらつぶれていて泊まる場所を探していた。

何とか見つけて夕食を済まし風呂屋に行った。

3日ぶりだったので気持ちが良かった。

この日は50Km走行した。寝る時海風が気持ち良かった。

8月14日

何とかフェリー乗り場に到着して淡路島から神戸に行った。そして神戸から大阪へ行った。

そこで気がついた。

淡路島は信号が少ないから速く行けたけど大阪は信号が多いからいやだった

この日は50Km走行した

5. 今回プロジェクトの総合評価

何と行ってもこのプロジェクトに参加して良かったと思う

フェニックスパークの中に入れなくて残念だった

灯台に行って良かった

予定より速く目的地に着いたのすごいと思った

今後の改善案

荷物の中でシャツはいるけれどパンツは少なめでよかった。

夜の外は寒いので寝袋を持って行ったほうが良かった

隊長コメント

体力のすごさに驚きました。

後藤君にとっても初めての経験だったのでは？

一つでも自分の身についたことがあればこのプロジェクトは大成功だったと思います。

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	大阪連盟北河内地区	団・隊	寝屋川4団 ベンチャースカウト
代表者名	中村 健一郎	隊長名	藤淵 節也
プロジェクト名	The Last Dance (ザ・ラスト・ダンス)		
目的	世界自然遺産の屋久島を訪ね5感で体験する。 沖縄米軍基地の実態に触れると共に、琉球王朝の歴史を探る		
挑戦アワード	1.社会・地球環境 2.国際文化 3.高度な野外活動 4.体力作り 5.分化活動 6.専門分野、得意分野の探求 7.奉仕活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
中村 健一郎	寝屋川4団	チーフ、会計	
東山 勝弓紀	//	マネージャー	
岡田 希世志	//	備品、記録	
活動期間	1998年8月30日～9月10日		
活動場所	鹿児島県屋久島、沖縄本島周辺		
活動の概要	屋久島宮之浦岳登山 屋久島一周サイクリング スキューバーダイビング 沖縄一周（レンタカー、サイクリング） 沖縄米軍見学 戦争跡地探訪		
添付書類	1. 企画書 2. 計画書 3. 行程 4. 日誌 5. Last Dance		

THE LAST DANCE

期間 1998 年 8 月 30 日(日)～ 9 月 10 日(木)

日本ボーイスカウト大阪連盟北河内地区
寝屋川第 4 団ベンチャー隊

リーダ:中村健一郎
チーフ:東山勝弓紀
隊 員:岡田希世志

VSプロジェクト企画書

北河内地区寝屋川第4団 提出者 東山勝弓紀

VP区分	個人	グループ	ビッグ	アワード分野	社会・地球環境 スポーツ体力作り	承認					
					議長 齋藤祐輔	隊長 藤淵節也					
プロジェクト名	THE LAST DANC S					可決	☐	否決		再検討	
目 的	世界自然遺産の屋久島を訪ね5感で体験する 沖縄米軍基地の実態に触れると共に、琉球王朝の歴史を辿る					可決	☐	否決		再検討	
プロジェクト工程概要											
6/18 隊会議にプロジェクト立案検討、いろんな候補地や活動目的など検討											
6/21 プロジェクト会議 議題 候補地の情報収集の検討・キャンプ地の検討											
6/25 プロジェクト会議 議題 滞在日数や活動内容の検討・もう一つのキャンプ地											
6/27 プロジェクト会議 議題 活動期間・交通手段の検討											
6/28 プロジェクト会議 議題 再度、滞在日数や活動内容の検討											
6/30 プロジェクト会議 議題 屋久島登山ルートの検討 屋久島での工程											
7/ 2 資料収集 鹿児島県・沖縄県事務所（大阪支部）訪問実施調査											
7/ 4 隊運営会議 中間報告 航空券予約（京阪交通社寝屋川支部）											
7/ 7 プロジェクト会議 議題 実施計画書の詰め											
7/11 隊会議 隊長に提出承認 バイトで資金作りにGO											
8/29 団・隊壮行会											
チーム名「ザ ラスト ダンス」						役割分担					
チーフ						中村健一郎					
マネージャー						東山勝弓紀					
会 計						中村健一郎					
備品、記録						岡田希世志					
期 間						平成10年8月29日～9月10日					
場 所						鹿児島県屋久島・沖縄本島周辺					
交 通						鉄道(青春18切符)、フェリー、飛行機					
予 算						1 3 5 , 0 0 0 - / 1人×3人= 4 0 5 , 0 0 0 -					
個人備品						5.食器 10.学生証					
1.寝袋						6.登山用具					
2.ランタン						7.水着					
3.ポンチョ						8.健康保険の写し					
4.着替え、タオル						9.こづかい					
隊備品						1.テント					
						2.炊具一式					
隊長承認印											
隊長許可印											
計画コース						団・隊への要望					
大阪→岡山(泊)出水(泊)西鹿児島(船)→屋久島						野営備品借用					
白谷山荘(泊)縄文杉～宮之浦岳登山→						団主催の壮行会、報告会の開催					
屋久島一週サイクリング泊						隊員主催の激励会					
キャンプ(泊)→フェリー鹿児島(飛行機)→沖縄那覇											
沖縄国際ユースホテル(泊)スクーバーダイビング講習(3泊4日)											
譜天間米軍基地視察・沖縄一週(バイク)中部・北部											
沖縄南部(サイクリング)、歴史・戦争跡地探訪(泊)(泊)											
帰阪(飛行機)											
支援依頼						隊費、支援金					
隊長のコメント											
ベンチャー年代最後の活動として、今まで培ったBS技能や活動の集大成として仲間が集まりビッグなプロジェクトを企画・計画・実行する事になり、隊長としてとてもうれしい。											
また目的として世界遺産である屋久島の実態体験は大自然の中の自分を見つめる絶好の機会と思うし、自然と動植物の生態系や共存共栄の必要性など、学ぶ事も多いだろう。											
また、沖縄の持つ基地問題や戦場となった地域を訪ね、肌で感じる事は、とても意義深く全工程を通して明確な目的意識をもって活動してきてほしい。											
安全に注意を払う事。旅の成功を祈る。											

8月29日・30日

・青春18切符を使って移動した行程

目的地	到着時刻	出発時刻	走行距離
大 阪	P.M 23:26	A.M 0:02	55.9 km
西 明 石	A.M 0:55	A.M 5:18	32.1 km
姫 路	A.M 5:50	A.M 6:33	88.6 km
岡 山	A.M 8:01	A.M 8:12	202.7 km
岩 国	A.M 11:33	A.M 11:48	182.0 km
下 関	P.M 14:51	P.M 16:12	11.8 km
小 倉	P.M 15:27	P.M 16:00	103.9 km
久 留 米	P.M 17:36	P.M 18:04	33.6 km
大 牟 田	P.M 18:39	P.M 18:54	33.6 km
熊 本	P.M 19:61	P.M 20:02	49.1 km
日 奈 久	P.M 20:51	P.M 22:46	46.8 km
出 水	P.M 23:47	A.M 5:14	55.5 km
鹿 児 島	A.M 7:29		106.1 km

走行距離合計 1007km

ファイナルプロジェクト・THE LAST DANCE・
計画書作成過程

会合日	場所	内容
【第1回】 6月18日(木) PM19:00～	寿司の川原	【議題】 ・キャンプ候補地について (北海道・屋久島・種子島・沖縄) 【プロジェクトテーマについて1】 ・北海道 北海道の自然やアイヌ文化に触れ本J11から離れて日本を見る。 ・屋久島 縄文杉など屋久島の自然に触れ自然の偉大さを学ぶ。 ・沖縄 沖縄米軍基地問題の考察と琉球文化を学ぶ。 ・種子島 今まで蓄積してきたスカウト活動の経験をわが未来に向けて発砲する。
ベンチャースカウト最後のプログラムの夏季キャンプをどこへ行くのかを話し合った。 以前から屋久島へ行ってみたいと思っていた私たちは、屋久島へ行ったことのある団委員の杉本さんに来て湧き、屋久島の資料や話をうかがった。		
【第2回】 6月21日(日) PM18:00～	東山宅	【議題】 ・屋久島について ・キャンプ地の決定
今回は屋久島の資料を見たりインターネットで探索し調べたりと屋久島について勉強した。		
【第三回】 6月25日(木) PM19:00～	東山宅	【議題】 ・屋久島の潜在日数について ・もう1つのキャンプ候補地について
今回の会議では屋久島の滞在日数について話し合った。 最後のプログラムになるのだから、思い出を作ろうということになりもう1つ候補地で沖縄に行きたいという話になった。		

【第4回】 6月27日(土) PM18:00～	東山宅	【議題】 ・ファイナルプロジェクトの実施期間について ・ラストダンスの交通機関について
今回の会議ではファイナルプロジェクトの実施期間と屋久島・沖縄の滞在日の予定について話し合った。 8月15日から8月27日間でに行こうということになった。ラストダンスの旅のコースはやはり縄文杉を見たいという思いが強く、屋久島に行き絶文杉を見てから沖縄へ行くということになった。		
【第5回】 6月28日(日) PM19:30～	東山宅	【議題】 ・屋久島の滞在日について
第2回の会議で屋久島について色々、資料やインターネットを使って調べたことを今回の会議で大まかに決めた。やはり屋久島の代表的な縄文杉を見てからその他の名所を回ろうという事にした。		
【第6回】 6月30日(火) PM19:30～	東山宅	【議題】 ・屋久島の登山ルートについて ・屋久島の行程について
今回は屋久島の登山ルートを決めたが、今まで屋久島について色々調べてきたが、登山には想像以上に時間がかかるのがわかり絶文杉を見て下山することに決めた。他の行程は自転車で屋久島一周をしようという事になった。		
7月2日(木) PM15:00～	鹿児島県 事務所 (大阪支部) 沖縄県 事務所 (大阪支部)	屋久島と沖縄の最新の資料を取りに県事務所まで行った。 屋久島へ行った際の注意事項や観光名所などの話を伺った。 沖縄県事務所では米軍基地問題の話などを伺った。
7月4日(土) EM16:00～	京阪交通社 (寝屋川支部)	鹿児島～沖縄・沖縄～伊丹の航空券の購入
【第7回】 7月7日(土) FM19:00～	中村宅	【議題】 ・ラストダンスの計画書の作成 ・プロジェクト実施期間の変更
今回の会議で最終のチェックを行った。プロジェクトの実施日がお盆を避ける方向に決めた。 そして計画書を仕上げた。		
7月11日(土) PM21:00～	隊長宅	・ファイナルプロジェクト計画書の提出
隊長に計画書を提出し行程や目的などについて話し合った。		

日 程： 1998年8月30日(日)～9月10日(木)

場 所： 8月31日(月)～9月 4 日(金) - 屋 久 島 -
9月 4 日(金)～9月10日(木) - 沖縄本島 -

参 加 者： リーダー 中村 健一郎
チーフ 東山 勝弓紀
隊 員 岡田 希世志

目 的： ・世界遺産に触れ自然の威大さを体感しよう
・米軍基地の実体と琉球王朝の歴史をたどる
・ベンチャー隊での最後のプロジェクトで心に響き残る思い出を作る

扶戦アワード： 高度な野外活動

技能章： 野営章・炊事章・環境衛生章・文化財保護章

活動内容： ・移動キャンプ
・登山
・文化探求
・スキューバーダイビング
・サイクリング

実施予算：

交通費	\120,000
宿泊費	\28,350
食 費	\66,976
備品費	\11,892
ライセンス費	\90,000
そ の 他	\39,251
合 計	\357,469

隊 費 \60,000

一人当たりの金額 \119,156

行程：8月30日（日）～9月2日（水）

	8月30日(日)	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)
AM 5		鹿児島出水(発)		
6		～電車～		
7			起床・朝食	起床・朝食
8		鹿児島新港(着)	白谷雲水峡(発)	
9			桶川分れ	安房(発)
10				屋久杉ランド
11		～フェリー、	大株歩道入口	千尋滝
PM 12			ウイルソン株	トロオキの滝
13		屋久島(宮之浦)	縄文杉	
14		白谷雲水峡	～トロッコ道～	有馬家訪問
15			荒川ダム(着)	大川の滝
16		～登山' -		湊燈台
17		白谷山琵琶	安房(着)	ガジュマロ公園
18		夕食	尾之間温泉	安房(着)
19				平内海中温泉
20		就寝	夕食	夕食
21				
22				座談会
23			就寝	
24				駄寝
1				

行程：9月3日（木）～9月6日（日）

	9月3日(木)	9月4日(金)	9月5日(土)	9月6日(日)
AM 5	起床・朝食			
6	安房(発)	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食
7	淀川登山口	掃除	ユースホテル(発)	ユースホテル(発)
8	淀川小屋	～お土産～	スキューバー ダイビング学校 (D.Dハウス)	砂辺ビーチ
9	黒味分岐点	宮之滴港(発)		DiviD,g
10	黒味岳	～フェリー～	砂辺ビーチ	
11	宮之浦岳	鹿児島新港(着)	昼食	昼食
PM 12	～下山～		Diving	
13	淀川小屋	～無邪気～		Diving
14	淀川登山口			D.Dハウス (学科)
15	安房(着)	鹿児島空港(発)	D.Dハウス(着)	ユースホテル(着)
16	夕食	～飛行機～	ユースホテル(着) 夕食・自炊 (カレーライス)	夕食・自炊 (バーベQ)
17	平内海中温泉	沖縄空港(着)		
18	～洗濯～	沖縄国際ユースホテル		沖縄国際通り 見学・買物
19	就寝	～入浴～	入浴	
20		夕食		
21				入浴
22		就寝		
23			就寝	就寝
24				
1				

行程：9月7日（月）～9月10日（木）

	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)
AM 5	起床・朝食		起床	
6	ユースホテル(発)	起床 朝食・自炊	朝食・自炊	起床・朝食
7				沖縄国際通り
8			沖縄国際 ユースホステノレ (レンタサイクル)	～お土産～
9	真栄田岬ビーチ(着)	バスターミナル		
10	Diving	～バス～	平和祈念公園	
11	昼食		ひめゆりの塔	昼食
PM 12		万座毛		
13	Diving	名護	昼食	那覇空港
14			～サイクリング～	那覇空港(発)
15		～バス～	首里城	～飛行機～
16	D.Dハウス(着) (学科)	普天間	夕食・自炊 (焼肉Iやきそば)	伊丹空港(着)
17		～バス～		
18		勝連城		寝屋川市駅(着)
19	奥武山公園キャンプ	～バス～	沖縄国際通り	すしの川原(着)
20	夕食	那覇	奥武山・公園	～報告会～
21		夕食	キャンプ	解散
22				
23	就寝	奥武山公園キャンプ	就寝	
24		就寝		
1				

8月29日(土)【寝屋川市駅～大阪駅】「曇り時々雨」

8月29日(土)いよいよ出発の日がやってきた。この12泊13日にして、ベンチャー隊での最後のプロジェクトとなる、[THE LAST DANCE]を実行する時が、ついにやってきた。この日、隊長はこのプロジェクトの成功を祈って、僕達3人の為に、すしの川原で壮行会を開いてもらい、隊長を始めすしの川原の大將、女將さん、お客さんにも激励され、目的地である屋久島・沖縄に出発した。

隊長に寝屋川市駅まで送ってもらい、寝屋川市駅をバックにして記念撮影をし、電車に乗り込んだ。この日は、寝屋川祭りが行われており、浴衣姿の人が多く乗っていて、大きな荷物を担いだ僕達3人は、少し電車の中で浮いていた。

大阪駅に着くと僕達3人は、明日の朝食とこのプロジェクトの思い出を書き込むためのノートを買いに、駅近くのコンビニエンスストアに行った。コンビニで買物を済まして外に出ると、いきなり雨が降ってきた。出発してからまだ1時間もたたない内に雨が降ってきて、何か不吉なことが起こるのではないかと思わせる雨だった。

大阪駅に戻って、電車に乗る時間を待っていると、目の前の電光掲示板に僕たちの乗るはずの、「ムーンライト高知・満席」という掲示を見て僕達は慌てて駅員に確かめに行った。すると駅員は、このムーンライト高知は全席指定で、グリーン車だと言い、僕達は乗ることが出来ない事になった。僕達の計画では、青春18切符で1日で鹿児島県の出水という駅に行く予定であった。しかもこのムーンライト高知に乗って行かなければ、出水には着けず、明日のうちに出水に着かなければ、あっさとの屋久島行きのフェリーまで乗り遅れるという最悪の事態に陥ってしまうのだ。ここで僕達3人は、突然で最大のアクシデントに遭遇してしまい、いやな予感が的中してしまった。結局3人で話し合った結果、とりあえず行けるとこまで行って、そこでまた考えようという事になり姫路行きの最終電車に乗った。

8月30日(日)【大阪駅～鹿児島県出水駅】「晴れ」

電車に乗ってからもこれからどうするのかを話し合った。岡山まで行って新幹線に乗るとか、姫路から岡山までタクシーで行くなど、何通りも考えて一番費用がかからず、しかも確実に出水に着ける案を考えたが、まとまりきらず西明石駅で降りて、時刻表を借りてもう一度行程を考え直すことにした。この西明石駅には、僕達と同じようにムーンライト高知に乗れなかった人達がいた。話を聞くと女の子2人で、青春18切符を使って旅をしていて、明日までに高知に帰らなければいけないと言う2人の女の子がいた。その女の子達の後には駅員に時刻表を見せてもらった。その結果、なんとか予定通りに青春18切符で出水まで行けることがわかり、3人は手を取り合って喜び合った。そして、駅員にもう一度確認し時刻表を返し御礼を言って、西明石の駅を出た。

目的地にたどり着ける事がわかった3人は、ホットしたせいか急にお腹がすき、近くのコンビニで腹ごしらえをし、始発電車の来る時間まで少し横になった。

新聞配達の声で目が覚めた3人は、眠たい目をこすりながら、始発電車の来るホームへ向かった。改札口付近には、昨日のムーンライト高知に乗れなかった人達がいて、旅の成功をたたえ合い、このプロジェクトの為に団委員の杉本さんに作って頂いた、名刺を渡し別れの挨拶をしてホームへ歩いた。

今日の電車乗車時間は、約18時間にも及ぶ長い道のりだ。一本でも電車に乗り遅れると、今日の目的地である出水には着けないのである。気を引き締めて出発する3人であった。

気を引き締めて行こうと言っても、電車の中では何もすることがなく、電車の揺れが、疲れた体を眠りに誘い込んだ。何事もなく順調に進んで行き、うとうととしていた目も次第に覚め広島駅を過ぎたぐらいから、目の前に美しい瀬戸内海が開けてきた。もう少し進んで行くと、宮島の赤い鳥居が見え、車窓から見る宮島の美しさに少し感動した。

下関を過ぎ関門トンネルを通り、ついに九州に上陸した。15時27分に小倉駅に着くとすぐに、改札を出て博多ラーメンを食べに走った。まだ、昼食をとっていなかった僕達は、無言のまま目の前にある博多ラーメンを、あっという間にたいらげた。小倉を過ぎ、久留米を過ぎ、大牟田に着くと、外はもう暗かった。車窓から見る景色も、田んぼや畑が広がり街の明かりが少なくなってくるにつれて、不安で胸がいっぱいになった。そして日奈久という駅に着いた。

この日奈久という駅は、ちくわの産地で知られる町であった。この町で、次の電車が来るまで約2時間もあり、時間に余裕があったので町を探検することにした。日奈久に着いたのが、21時だった

せいか人がいなくて、暗い町に思えた。さすが、ちくわの産地だけあって町のいたる所にちくわのお店があった。町を探検し終わって駅に戻ってみると、タクシーが1台止まっていた。そのタクシーの運転手に話し掛けてみると、この日奈久の町を説明してくれたり、鹿児島のお話をしてくれたり、とても優しく本当に充実した時間を過ごせた。運転手さんどうもありがとう。

やっとのことで、今日最後の電車に乗り出水に向かった。さすがに電車の中に18時間もいたので、お尻や腰が痛く本当に疲れた。ついに今日の目的地である出水に着くと、まず隊長に今日の報告の電話をした。昨日のアクシデントの話をするとても驚いていて、もうこれ以上のアクシデントはもう起こらないと言ってくれ、これからの活動の励みになった。その後、寝る所を探しに出水の駅周辺を歩いてみたが、気に入る場所がなく駅に戻ってくつろいでいると、駅員がきて待合室を貸してあげるからそこで寝なさいと言われ、とても助かった。待合室を開放してくれたお礼に駅のホームや、待合室を掃除してからベンチに横になって寝ることにした。

8月31日(月)【出水～鹿児島～屋久島～・白河山荘】「晴れ時々雨」

5時14分の始発、鹿児島行きの電車に乗ると、もう電車に乗らなくていいことにとても喜んだ。さすがに1日中電車に乗っていると、腰が痛くて痛くて、本当に疲れた。7時29分やっとなら電車から開放され鹿児島駅に着いた。鹿児島駅に着くと、駅のスタンプを押し急いで鹿児島新埠頭に向かって歩いた。駅を出ると、路面電車が走っていて、とても新鮮な気分になった。屋久島行きのフェリーの出航時刻が8時45分と急がなくてはいけなかったのも、鹿児島見物もできないまま、足早にフェリー乗り場へ歩いた。

フェリー乗り場に到着、折田汽船で出航の手続きを取っている間に、一人ずつトイレに駆け込んだ。屋久島に着くとすぐに登山するので、体調管理は個人で把握しなければならないのでまず、トイレで健康チェックをした。3人とも健康そのもので、登山の準備は万全であった。

フェリーに乗り込むとまず寝床を確保しようとしたが、すでにいっぱいどこも開いておらず、仕方なくラウンジで過ごすことにした。出航の警笛がなるころ、3人は外に出てタイタニックでレオナルド・デイカプリオとケイト・ウインスレットの真似をして記念撮影を楽しんでいた。

フェリーの中には、大浴場があり3人は喜んで2日間の汚れを洗い流した。給湯は結構広く、しかもサウナ付というなんとも豪華な船旅でした。

4時間後、ついに最初の目的地である屋久島が見えてきた。僕達が想像していた屋久島というのは、島の中に宮之浦岳がある小さな島だと思っていたが、率直な感想を言うと、何て大きな島なんだ。島全体が、山、山、山でそびえ立っているみたいだった。

フェリーを降りると、リーダーの親戚のおばさんが迎えに来てくれていた。僕達は、計画の段階ではおばさん達の支援をお受けできないと一度断ったのだが、屋久島は世界文化遺産に指定されてから、勝手にキャンプをしてはいけない事になっていて、ボーイスカウトの活動として来ているにも関わらず、埠頭のルールを破ってはいけないという考えから、支援をお願いした。

組戚のおじさんは、この屋久島で警察官をしていて、登山者が遭難した時、救助隊として活躍していて、計画の段階から色々屋久島のことでアドバイスを頂きました。そのアドバイスから、今回の登山ルートを決めました。がしかし、フェリーを降りて登山許可書を提出すると、受付の人が「本当にこのルートで登るんですか」と

聞き返してきたので、何ですかとこちらが聞き返すと、受付の人は「このルートは、普通だったら1泊2日ではなくて、2泊3日のコースで他の登山者はするんですよ。」と言われ驚きました。しかし3人は、一応登山経験者だし、100kmハイクも完歩しているという、少し甘い考えで1泊2日で登ることにしました。

フェリー乗り場を出て、近くのスーパーで食料とお茶を買いました。そして、白谷雲水峡までおばさんに車で送ってもらいました。その道中でおばさんが、登山の注意を話してくれました。内容は、毎年遭難者が出るほど道に迷うので気をつけなさい。そして、木に目印の赤いリボンがついているから、そのリボンを探しながら登りなさい。そして最後に、湧き水は生のままで飲んだらいけない。飲むんだったら、一度沸騰させてから飲みなさい。湧き水は、上流でサルや熊の死骸や登山行方不明者が死んで腐っていてそれが流れてきたりするからということでした。さすがにこの話を聞いたとき、生死をかけて登らなければいけないと思った。

登山の出発地点である白谷雲水峡に着いて、おばさんに挨拶をして登山の準備をしていると、急に大雨が降ってきた。いきなりの雨のお出迎えに少しイラダチながら、今日泊まる白谷山荘に向け

て出発した。

雨の降る中、重たい荷物をかついで、ボンチョを着て山道を歩くのは本当に久しぶりのことだったので、少し楽しかった。しかし白谷山荘に行くまでの道は、岩がごつごつして歩いていく、さらに岩にこけが生えていたので、とても滑りやすく足場が悪く慎重に登った。だが、とても重い荷物をかついでいたので足がいうことをきかず何回かこけてしまった。

30分程歩くと雨がやみ、晴れ間が出てきた。ちょうどいい腰かけがあったので、そこでボンチョを脱ぎ、少し休息を取った。世界遺産に指定されているだけあって、自然がきれいで色々な杉や他の植物が茂っていた。休憩を5分で終え白谷山荘へ向けてまた出発した。雨で道がぬかるんでいたため歩きにくく白谷雲水峡から白谷山荘まで1.5kmなのに2時間もかかった。

白谷山荘に着くとまず寝床の確保のために、小屋の中に入った。小屋の中には何もなくてとても暗くて殺風景だった。絶対1人では泊まりたくないと思うほど怖い雰囲気だった。そして濡れたボンチョを干して、少し早い夕食にした。夕食は宮之浦で買った弁当をとった。弁当を食べたのは、5時だったのにもう暗くて、他に何もできなかった。

夕食を終え、小屋の中で明日のための会議をした。起床5時で6時に出発などと、時間を決め他に何もすることがなかったので、明日に備えて7時に寝ることにしたがすると、小屋に新しい人が来たので少し話をした。鹿児島から1人できた大学生で縄文杉を見て下山の途中でこの小屋で宿泊するとのことであった。その大学生と仲がよくなり枝豆をもらって食べたりと一緒に夜を過ごした。

9月1日(火)【白谷山荘～縄文杉～荒川登山口～安房】「晴れ」

今日の出発は、6時だったのに朝起きたのは7時だった。3人は飛び跳ねて起き上がり、荷物の整理をしてパンを食べ急いで出発した。やはり昨日の疲れや電車の長旅の疲れが一気に出てしまった。寝坊したのは仕方がないので、ペースをあげて予定通りに行けるようにあまり休憩はとらなかった。というのも6時に出発しても時間通りに行くかどうかかわからないほど無理な設定で、しかも余裕をみる時間を取ってなくて、下山予定時間を大幅に過ぎてしまって、親戚のおばさんに迷惑をかけてしまうのではないかとほんとにあった。

白谷山荘から楠川分岐点までの道は、下りでかつとても急であった。しかも崖崩れをおこしていて、足場が悪く時間を短縮することができなかった。楠川分岐に着くと、今度は昔屋久杉を運ぶのに使っていたトロッコの線路の道をひたすら登って行った。登ること1時間、大株歩道の入口に着いた。

大株歩道は、整備がされていて階段が作ってあった。その階段は、とても急で足を踏み外すととても危険なくらい急であった。9時50分やっとのことで、ウイルソン株に着いた。

ウイルソン株は想像していたのよりもはるかに大きく、中は空洞になっていて十分に人が入ることのできるスペースがあり、とても神秘的であった。しかし僕達には時間がなくすぐに出発をしなければならなかった。だが、無理なハイペースでしかも重たい荷物を背負っての登山は、足に負担が大きくチーフ東山の足がバンバンに張れてしまっていて、荷物を背負って登るのはむりであったので、ウイルソン株から少し離れたところに荷物を置き出発した。しかし、東山の足の張れがひどく、もしこれ以上無理して歩いて、下山できなくなったらいけないので、ここで待機してもらって、2人で縄文杉を目指すことにした。

ウイルソン株から縄文杉までの道は、さらに険しく途中で杉が倒れていたり、とてもハードだった。歩いていくと湧き水が流れており、顔を洗ったり、口を潤した。とてもおいしくて一気に体力が回復したような感じがした。さらに登って行くと、夫婦杉や大王杉などのすぎがあり、この杉をみただけで、すぐに名前が想像できるほど特徴のある杉であった。そしてついに目的地である絶文杉に11時16分に着いた。縄文杉は少し高台にあり、少し開けた場所にあった。縄文杉の周りには柵があって、直接触ることはできなかったが、見ているだけで、心が浄化されているような感じがした。何か縄文杉からエネルギーをもらっているような不思議な気持ちになった。テレビや雑誌で見るよりも迫力があり生命の偉大さを感じることができた、貴重な体験をした。そして縄文杉から少し離れたところで、他の登山客と色々な会話をして、昼食を取り写真を撮り、絶文杉を見て感動した2人は、登って来た時よりもさらに早いペースで、下山した。

下山途中にある大王杉のところで、ウイルソン株で待機をしているはずのチーフの東山に会った。自分1人だけ楽をするのはいやで、少しでも屋久島の自然を感じたくて、必死に登ってきたのだった。リーダー中村と隊員の岡田は、東山の努力に驚いた。しかし、大王杉から縄文杉までは、往復で80分もかかり、本当は東山にも縄文杉のすばらしさを体感してほしいが、時間がなかったし、もし

また無理をして下山できなくなっているといけないので、仕方がなく下山することにした。そしてウィルソン株で、荷物を背負い大株歩道、トロッコ道を下った。

トロッコ道を下って行くと、自然の力で線路がめくり上げられていて回り道をしなければいけないところが何箇所もあった。あらためて自然の力のすごさや力強さを感じた。

トロッコ道を下る途中に、鉄橋がありその高さは30mくらいで、下には激流が流れていて、上空は風が強くまるで3人の行く手を阻むようであった。しかも道幅は狭く、重たい荷物を背負っていたので、さらに恐怖が増して本当に慎重に渡った。

恐怖の鉄橋を渡った3人は、さらにペースを上げ信じられないほどの時間で、最終的地である荒川登山口に3時05分に着いた。ものすごいほどの時間短縮に3人は驚きながら、風邪をひかないために着替えた。するとおばさんが車で迎えにきてくれた。3時30分に荒川登山口で待ち合わせで、僕達は急いで待ち合わせの時間に遅れないようにして正解だった。

3人は車へ乗せてもらって、おばさんの家に向かった。車の中から屋久島を眺めるとあらためて、屋久島の大きさがわかった。荒川登山口から車で走ること1時間、おばさんの家に着いた。おばさんの家は警察の社宅で家の中には警察の制服などがあり、少し恐れ多い気分であった。荷物を下ろすとおばさんが、「温泉に入ってきたさい」と言われたので、お風呂の用意をし、おばさんに車の鍵を借りた。ところがその温泉というのは、おばさんの家から30km離れたところの温泉で3人は驚いた。しかしこれ以上近くにはなかったので、車を借りて温泉を目指した。

温泉へ向かって走っている途中、他の車はほとんど走ってなく町の中でさへ外灯がなく、怖々と車で走ること30分、尾之間温泉に到着した。尾之間温泉は浴底に石が敷かれていて、少し熱めのお風呂であった。しかしその熱さが、疲れた体を癒してくれたような気がした。そしてお風呂上がりにはやはり、コーヒ牛乳を一気に飲んで足早におばさんの家に帰った。

家に着くと玄関のドアを開ける前からとてもおいしそうなおいがした。今日の夕食はおばさんが、屋久島で取れたトビウオやキビナゴの刺身や薩摩汁を作ってくれた。とてもおいしかった。特にトビウオの身が引き締まっておいしかった。大阪では珍しい魚の刺身がいっぱい食べれてよかった。

今日は仕事の接待でおじさんは帰りが遅かった。おじさんは僕達をととても歓迎してくれた。僕達はきちんと挨拶をして、大阪で買ったお土産を渡した。とても喜んでくれて会話がはずんだ。おじさんは屋久島へは単身赴任していて、久しぶりのにぎやかさを喜んでくれた。そのときテレビで明日の天気予報がしていて、明日の屋久島の天気は、なんと雨で大雨警報が出されていた。僕達は明日、自転車で屋久島1周を計画していたが、大雨警報が出ている状態でどうしようか迷っていたら、おじさんが「こんな小さい島を自転車でまわっても、何の自慢にもならない、どうせやったら九州一高い宮之浦岳を登ったほうがいい、大雨注意報がでていたらレンタサイクルもしてないから、車で一周したら」と提案してくれました。3人は計画通りに自転車で回って、青少年野外村でキャンプをしようということに決定して、明日に備えました。

9月2日(水)【屋久島一周】「雨のち曇り」

朝目が覚めるとやはり大雨だった。さすがにこの大雨では荷物を背負い、ボンチョを着て自転車に乗るのは危険だと判断し、おじさんに車を借りて、車で回ることにした。まず3人は屋久杉ランドから。回ることにした。というのは、団委員の杉本さんが自転車で屋久島一周した時、時計回りは上り坂が多かったと、教えてもらっていたので、車の燃費を考えて僕達は反時計回りで行くことにした。

安房から車で走ること1時間、屋久杉ランドに着いた僕達は大きな看板の前で立ち止まった。その看板には安土桃山時代に豊臣秀吉が屋久杉の質の高さを気にいって、伐採させていたことや、江戸時代屋久島に住む人達が年貢の変わりに屋久杉を納めていたことなど、とても興味深いことが書かれていた。さすが天下統一する人の目は超一流だなと感心した。屋久杉ランドは3つのコースがあり、僕達は2番目のコースを選んだ。途中で鹿児島から遊びにきていた女子大生に写真を取ってもらったりと仲良くなり、一緒に周りました。仏陀杉はとて大きく緑の葉っぱが綺麗だった。40分コースを30分で見終わるとお土産屋があり、屋久杉を使ったしゃもじなどを買い、すぐに次の目的地である千尋滝へと出発した。

屋久杉ランドから車で走っていると雨がやみ晴れ間が見えてきた。千尋滝に着くと観光客がたくさんいてガイドさんの話を聞いていた。僕達も横で説明を聞いていると、千尋滝の高さなどを説明していたがあまり聞こえないくて少し惜しいことをした。実物は少し離れたところからしか見れな

かったが、大きな岩の上からおよそ100mの高さから落ちる水しぶきの勢いはものすごくとても美しい滝だった。

次はトロオキの滝を見に行った。この滝は水が海へ落ちるという珍しい滝で、千尋滝から車で20分のところにあった。はじめ場所がわからず車で行ったり来たりと迷った。車から降りても森を抜けて細い道を行かなければならず、本当にこの道で合っているのか輪から納方が、しばらくすると海が見えてきた。海はとても澄んでいて魚が泳いでいるのもわかるぐらいとても綺麗だった。周りを見渡すと、ザーという音で海へと流れ落ちるトロオキの滝があった。その時ちょうど虹がかかっていて滝と虹と海が同時に見れるという本当に珍しい時間を過ごすことができた。そして写真を撮り、中間へと向かった。

中間には、団委員の杉本さんが紹介してくれ、ぜひ訪ねてくれという家があった。その家には有馬カネ子さんというおばあちゃんが1人で住んでいて、お店を開いていた。一回目行くと留守だったので、先に島を一周しようと車に乗り込んだがもう少しだけ待とうともう一度いってみた。やはり留守で家の前で待たせてもらってすぐに、有馬のおばあちゃんが帰ってきた。話によると、杉本さんが手紙を出してきて4日に訪れると手紙に書いていたということで、明日来るのだと思っていたということだった。有馬のおばあちゃんはとても元気があり明るいおばあちゃんだった。僕達は、家に上げてもらい色々な話をした。話を聞いているとやはり1人暮らしは寂しい様だった。だから観光客とお話をして人と接する機会を多く取り、それを楽しみにしているとおっしゃっていた。僕達が写真を撮りましょうと言うと、おばあちゃんはすごく照れていて、とても顔が真っ赤になっていた。3人はお店をバックに写真を撮ったが、おばあちゃんが照れていてなかなか一緒に写真に入ってくれなかったが、記念にと言うと真っ赤な顔をして一緒に写真を撮ってくれた。そしておばあちゃんに挨拶をして、大川の滝に向けて出発した。

大川の滝に行く途中湧き水が湧いているところがあったので立ち寄って飲んでみることにした。その水は少し甘くてとてもおいしかった。屋久島のミネラルが含まれているので結構有名な湧き水であった。車に乗ろうとするとガサガサと音がしたので、その音のするほうを見てみると屋久猿が木に登って遊んでいた。野生の猿が木登りしているところを見たことがなかったので、新鮮に思えたと同時に木登りのうまさに驚いた。僕達は思わず写真を撮ってしまった。

2時30分到大川の滝に着き、買っていたお弁当を持って滝壺のすぐ近くに行った。滝から流れ落ちる水の量はものすごく、みずしぶきが真っ白でとても綺麗だった。写真も色々な角度から撮り滝壺の水で顔を洗い、次の目的地へ出発した。

大川の滝から屋久島の燈台への道のりは長く1時間もかかった。途中とても景色のいいところで1人ずつ写真を撮ることにした。その景色は海と面白い形をした山で思わず気に入ってしまったのであった。屋久島の燈台は真っ白で裏は崖でその下には、釣り人がいて釣りを楽しんでいた。遠くを見ると種子島が見え、思っていたより種子島が近いことがわかった。時計を見ると時間が押しててすぐに出発をしなければいけなかった。

次はガジュマロ園に行った。ガジュマロ園はただガジュマロが生えているというだけの公園であった。そのガジュマロの幹はとても奇妙な形をしていて、根がたくさん生えていた。なぜガジュマロはこういう形をしているのか不思議に思いながら、宮之浦を目指した。

宮之浦では、屋久島文化センターに行こうと思っていたが、閉館時間のためはいることができなかった。仕方がなかったので、おじさんの家に帰り今日心に残った感想を書きこんだ。

そして明日の宮之浦岳登山用の買物をしにスーパーまで行った。やはり離島という事もあってか、物価が高いように思えた。そして足早に叔父さんの家に帰った。

そしておじさんの働いている屋久島警察におじさんを迎えに行き、平内に向かった。平内には温泉があり、その温泉は海の中にあって干潮の時、しかも一日に2回しか入れないという本当に珍しい温泉だった。おじさんもこの温泉には、まだ入ったことがなく、一緒について来てくれた。僕達は事前に平内海中温泉旅館に電話をして、何時ぐらいが入り時かを聞くと、「6時から7時ごろです。」と言はれその時間に合わせて行きました。だけど海はまだ干潮ではなく、温泉は生温かく、海水が中に入ってくるぐらい、波が押し寄せてくる状態でした。しかしせっかくここまで来たのだから、入ろうという事になり少し寒かったが入ることにした。温泉は硫黄のにおいがして、浴槽の中はとても滑りやすく、またお湯はぬるく塩味だった。旅館のおばさんにだまされた僕らは記念撮影をして帰ることにした。

おじさんの家に着いて僕達は、溜まりに溜まっていた洗濯物をコインランドリーで洗いにいった。コインランドリーで洗濯をしながら、これからの行動を3人で話し合った。ずっと迷惑をかけ

ているので、明日はどこかでキャンプをしようという事になり、コインランドリーを出ておじさんの家に戻って、この話を打ち明けた。

するとおじさんは、自分たちで決めたことならそれでもいいと言ってくれたが、この島では、決まった場所ではしかテントを張ることができないのにどこで泊まるのか、それと明日宮之浦岳を登って汗をかいたまま、風呂にも入らずにあっさでのトッピーに乗るのかと言われ、自分たちの考え不足に恥ずかしさを感じ、もう少し時間をもらって考え直すことにした。

当初の予定では、屋久島青少年旅行村に泊まることになっていたのですが、そこに泊まってもう一度平内海中温泉に入ろうという案を出した。だがこの案でいくと、交通手段がバスとタクシーしかなく、バスは一時間に一本しかなく、さらに6時45分が最終バスで宮之浦岳から戻って来ることができるか微妙であった。もし乗ることができなかったら、タクシーで行かなければならず、一万円以上はかかりどうしようか本当に迷った。さらにあっさで4日の10時30分の船で帰るので、その船に間に合わせなければならず、それに船のチケットをおばさんに預かってもらっているのです、安房に戻らなければならなかったのです、おそらくこの計画も無理だと思い、もう一日お世話になることになった。その話がまとまったのは、夜中の1時30分であった。

9月3日(木) 【屋久島～鹿児島～沖縄】 「晴れ」

昨日夜遅くまで会議をしていたため、起床時間が遅くなった。昨日会議でまとまったことを、おじさんとおばさんに報告すると「もう一泊してくれたほうがこっちも安心だし、ただでさえいつも単身赴任で家が寂しいのにもう一日話し相手になってくれ」と言われ本当におじさんとおばさんの心使いに感謝の気持ちでいっぱいだった。

朝食をとり山登りの準備をしていると、おじさんがこの時間から登ったら宮之浦岳は、下山するのが夜になってしまって危ないと忠告を受け、宮之浦岳の途中の黒味岳を登ったほうがいいと進められたので、もしペースが遅かったならば黒味岳に登ることにした。そしてもしアクシデントが起きたときのことを考えて、テントと2日分の食料を持って淀川小屋入口まで車を借りて出発した。

途中おじさんを屋久島警察まで送ってから、昨日行った屋久杉ランドの山道を登って、さらに屋久杉ランドを越え延々と砂利道を登って行った。安房から一時間ぐらいかかって、淀川小屋入口に着いた。

車から降りて準備体操とストレッチをして、9時20分に最初の目的地の淀川小屋に向けて出発した。本当は宮之浦岳を目指すのなら、遅くとも朝の7時には淀川小屋入口を出発していなければならず、この時間では安全を考え黒味岳を登ったほうがいいだろうと思った。さらに一昨日に縄文杉まで登っていた為、足の疲労がまだ回復していなかったため、淀川小屋に行くまでに先頭と最後尾の時間差が20分も開く状態であった。

一番初めに淀川小屋についたのはリーダーの中村であった。リーダーはやはりここまで来たのだから、九州で一番高い宮之浦岳を登って宮之浦岳からこの屋久島を見下ろしたく、またリーダーの意地にもかけて宮之浦岳を登ることを決意したのだった。このことを20分後に到着した、東山と岡田に話した。そして3人は別々に自分の力で行けるところまで行こうと言って出発した。

<ラストダンス>

旅は、自分を客観視できるいい時だとよく言われるが、我々も今回のプロジェクトで自然と人間について改めて考えようということで、我々は屋久島に行こうと決意したのである。

今回我々が、ラストダンスと称した我々のスカウト活動におけるファイナルプロジェクトは、いわば我々のスカウト活動の集大成の場であり、それと同時にこのプロジェクトを実行することによって得る貴重な体験が今後の我々の人生に生かされる場でもあると思っている。

さて、このラストダンスファイナルプロジェクトの目的は、二つの大きなテーマから成っている。

その1つ目のテーマは、屋久島に行き、自然にふれ自然と人間について改めて考えようということである。

なぜ屋久島なのかというと、屋久島は、平成5年12月に我が国初めての世界遺産に登録され、とりわけ有名な観光名所で、樹齢7200年といわれる縄文杉・大王杉・紀元杉、また千尋の滝や大川の滝などがあり、屋久島自体、他の所に比べると人間の手があまり及んでいない。今となっては、大変貴重な大自然があり、屋久島の千古の原生林である屋久杉は昔から知られている。

我々は、短期間であるけれども屋久島に身を置くことによって、そこから感ずる自然の偉大さ、ある意味での人間の限界、すなわち人間は、自然には逆らえないということ、自然と共生することこそが人類の最善の道であるということ、を改めて感じた。それでは具体的に我々は、自然との共生を目指す第一歩として日頃から一体何をするべきなのか。それを考えるには、絶好の場所であると思ったからである。そこで何を得たかということ、後ほど書き足したい。

さて、次に二つ目のテーマは4つの目的がある。1つは、沖縄の琉球文化に触れるということ、2つめは、沖縄から見た日本を見るということ、3つめは、沖縄の歴史を学ぶということ、そして4つめは、沖縄米軍基地問題について考察することである。沖縄米軍基地の現状と沖縄の人たちの立場に立って、この沖縄米軍基地問題を考察することである。この問題を考察するには、当然我々が実際に沖縄に行って、自分たちの目で見てみないとわからないと思ったからである。

以上の理由から、我々は沖縄に行こうと決意し、二つの大きなテーマから成るこのラストダンスファイナルプロジェクトを実行するにあたって、我々の今までのスカウト活動を通じて体験して得たさまざまな経験や、今まで培ってきた技能などを活用し、ペンチャースカウトとしてのスカウト活動の有終の美を飾り、今後のスカウト活動や、人生の糧とすることが、最終の目的である。

次に今回のプロジェクト名のラストダンスの名前の由来だが、先に述べた通り我々のペンチャースカウトとしてのファイナルプロジェクトなのでラスト、そしてダンスはダンスホールでおどるダンスで我々の今までのスカウト活動の体験したことや経験や技能などおダンスで表現するという意味である。ダンスといっても一筋縄には行かないもので、映画Shall we dance?ではないけれども、やはり踊るにはそれなりの練習(つまりここでは我々の今までのスカウト活動の経験)が必要である。そのようなダンスを踊りつつ、周りの人たちに見られながら、これまでのスカウト活動の成果をダンスで表現し、周りの観衆はいわば、屋久島・沖縄で出会った人たち、我が寝屋川第4団の皆さん、そして、常に人間と共に生きているこの地球の大自然が、我々を見ているということである。我々のペンチャースカウトとしての最後のプロジェクト、例えると、ダンスホールでのフィナーレの場面である。この場面を迎えるにあたって、我々は今までのスカウト活動を振り返っていた。

そもそもの始まりは、カブスカウトの入隊からで、あのときに先輩であったボーイスカウトのキャンプや様々な活動を見たとき、ボーイ隊に入隊したいと思い、少しずつではあるが、ロープの8の字結びから、もやい結びまでさまざまなロープワークを覚え、ボーイ隊の入隊を心待ちにしていた。

そして、ボーイ隊に入隊して一ヶ月後に団の行事である40kmハイクに参加し、精神的・忍耐力をつけ、初めての夏期キャンプに参加し、本格的にボーイスカウト活動を始めた。また班独自のキャンプもし、年明けには年越しキャンプにも参加した。

ボーイスカウトのキャンプで一番思い出に残っているのは、平成五年の夏期キャンプで、和秋山県の無人島に行ったことである。水深5m以上でも底が見えるきれいな海に師まれながら、一週間近くキャンプをした。

そこで学んだことは、水のありがたさ、海の偉大さである。漁船で水を運んだりしていたが、そのときに初めて熱いポカリスエットを飲み、それでも列をつくって飲んだ。

そして、極めつけはサバイバル体験として、一日だけ毎食3合のみ支給され、自分たちだけで海

の幸を確保するということをしたのだが、私の班だけは、何も確保できず、米だけを食べていたことが思い出される。今考えてみると大変貴重な体験であり、財産である。初めて大自然のなかのサバイバルというものを感じたキャンプであった。班の班長・次長も経験した。それは責任というものを考えさせられ、中心となる者がついてくる者をしっかり引っ張っていかなければならないことを知った。これは社会人になってから役に立つことだろう。

また海だけではなく、その一年後には、山で貴重な体験をした。

福井県の九頭竜あたりでキャンプをしたのだが、ここではアブと蛇に大歓迎された。毎朝、蛇と挨拶を交わしていたのを思い出される。

このキャンプでは山の恐ろしさ、気候の変化の激しさ、を改めて感じた。また自然の空気のうまさに酔っていた。

我々は、こういったさまざまなプログラムに参加することでいろんなことを学んで、成長してきた。だからこそ、このファイナルプロジェクトを企画し、実施するに至ったのである。

これを企画しているときに屋久島・沖縄について参考資料やインターネットで調べて、その時からもう始まっている気分になり、早くそこへ行きたいという思いが募った。

そして屋久島に実際に行ってみて、まず驚いたのは、想像以上の神秘的な島だったということだ。何が想像以上だったかというと、山の大きさである。大きな山の連なりが、まるで我々を圧迫するように誇らしげにそびえ立っていた。これには正直、体が震える思いがした。

さて、屋久島に着いてから我々はすぐ登山届けを出して、神秘的な山へと足を踏み入れた。二回に分けて登山をしたのであるが、一回日の登山は、屋久島のシンボルといわれる縄文杉を見るためである。

しかし、行き道は自然のすごさをむき出しにしている、前にはなかなか進めなかった。雨が降ったときに流されたのであろう、大きな木の幹が押し流されたように交互に重なり、道の一部を塞いでいた。その上、その登山道は下り坂で足の踏み場に困った。当然時間がかかり、自然の恐ろしさを身にひしひしと感じながら歩き続けた。

そして歩くこと4時間。縄文杉がそびえ立つ場所に到着した。我々はしばらく呆然とそこに立ちすくんでいた。ただただ、その大きさに見入ってしまったのである。それはまるで、縄文杉が屋久島全体の心臓であるかのように思えたからだ。まさしく神秘的な木であった。

しばらくして、下山をするために我々は再び歩き出した。そしてその途中に、映画「スタンド・バイ・ミー」の中に鉄橋を走って渡るというシーンを思い起こさせる鉄橋を5回渡ったのである。冒険をしているという気持ちでとてもウキウキしていたが、その反面、少し怖いという気持ちもあった。まさしく「スタンド・バイ・ミー」そのまま、鉄橋自体に手すりがなく、トロッキの線路の板を両手でつかみ、バランスをとりながら渡らなければならなかった。恐る恐る下を見てみると、川がごうごうと音を立てているように聞こえ、川岸にはたくさんの大きな大きな石がごろごろとあったのを覚えている。渡りきった後、鉄橋の高さや長さを測ってみると、鉄橋の高さは約12m、長さは約20mであった。道理で足がすくむ思いがするわけである。このことから屋久島の自然の偉大さを伺い知ることができよう。

二回目の登山は、9月3日に行った。宮ノ浦岳・黒木岳に登ったのである。三人の内、一人が宮ノ浦岳に登り、残りの二人は黒木岳に登ったのである。

宮ノ浦岳と黒味岳の分かれ道の手前に小花之江河、花之江河という湿原が標高1000m以上の山々のいっかくにポツンとある。この風景に私は神がそこにいるような気がした。この不思議な湿原を過ぎたらすぐに黒味岳に行く道を速い足取りで進んでいった。そしていよいよ我々二人は、黒味岳に着くと、山頂にある大きな岩から景色を見渡し、登ったという充実感にひたっていた。しかし、しばらくすると、近くの山々に雲がかかってきて視界も悪くなってきたので下山することにした。

この登山の翌日9月5日に神秘の島、屋久島に別れを告げて我々は、次の目的地の沖縄へと向かった。実は我々三人共に沖縄に行くのは初めてだったので、プロジェクトを企画している時に自分たちの頭の中に沖縄のイメージを膨らましていたことだろう。そのイメージ通り沖縄の海はきれいで、日本にもこんな所があったんだ、という驚きとうれしさで一杯だった。沖縄に滞在して四日目9月8日にバスで主な観光地を訪れ、また沖縄米軍基地の嘉手納もみましたが、特に印象を受けたのが米軍基地の無駄なまでの広さである。一見外から見てるとこんな空き地みたいな所を何につかっているんだ、と見受けられる土地がいくつかあったのである。飛行機の滑走路も、そうこまなような所でも広大な広さにフェンスが張り巡らされている。

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	南大阪地区	団・隊	藤井寺第3団V S 隊
代表者名	山村 恭淑	隊長名	西口 篤志
プロジェクト名	ガールを知る		
目的	ボーイスカウトとガールスカウトとの関係を深める		
挑戦アワード	文化活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
山村 恭淑	藤井寺3団	チーフ	
北 晃	〃	マネージャー	
湯川 卓也	〃		
平尾雄一郎	〃		
川本 敏貴	〃		
上田 洋之	〃		
川崎 将司	〃		
西口 篤志	松原1団	リーダー	
活動期間	平成9年10月26日（日）～平成10年4月7日（火）		
活動場所	富1スカウトハウス		
活動の概要	ガールスカウトのシステム、活動内容を知る。 実際にガールスカウトの活動を体験する。		
添付書類	計画書 報告書		

活動プロジェクト計画書

藤井寺台 3 団ベンチャー隊
山村 恭淑

プロジェクト名 : ガールを知る

挑戦アワード : 文化活動

活動実施機関 : 平成 9 年 10 月 26 日(日)～平成 10 年 4 月 7 日(火)

主な活動場所 : 富 1 スカウトハウス

所属 : 大阪連盟南大阪地区藤井寺 3 団ベンチャー隊

チーム名 : イブとゆかいな仲間たち

チーフ氏名 : 山村恭淑

マネージャー氏名 : 北 晃

グループメンバー名 : 湯川卓也 平尾雄一郎 川本敏貴 上田洋之 川崎将司

参加リーダー : 西口篤志 (松原一団)

承認欄 : 平成 10 年 10 月 26 日 隊会議にて

リーダー : 西口篤志

作成者 : 山村恭淑

1. プロジェクト推進計画

メンバーの会合打ち合わせ

1997 年 10 月 26 日 プロジェクトチーム結成 (羽曳野市民会館)

- ・ 交流相手隊を決める
- ・ 交流会の内容を決め打ち合わせをする
- ・ ガールスカウトを含め交流会を実施、次回の打ち合わせ
- ・ 第 2 回交流会の打ち合わせ (ベンチャー隊のみで)
- ・ 第 2 回交流会実施
- ・ 報告書作成

(詳細は別紙参照)

2. プロジェクトの計画内容

プロジェクト名 : ガールを知る

テーマ : ガールスカウトとの交流

目 的 : ボーイスカウトとガールスカウトとの関係を深める

内 容 : ガールスカウトのシステム、活動内容を知る

方 法 : 実際にガールスカウトの活動を体験する

3. 全体予算

・内訳 食費	4, 0 0 0 -
・消耗費(ロープ洗剤等)	1, 5 0 0 -
・お菓子ジュース代	3, 0 0 0 -
・景品代	1, 5 0 0 -
合計	1 0, 0 0 0 -

4. プロジェクト推進計画詳細

① 交流相手隊を決める

方法

- (1) メンバーの隊にガールスカウトの隊がないか探す
- (2) 知り合いの中でガールスカウトの関係者がいないか探す
- (3) リーダーに頼む

みつければガールスカウトの隊の人にこのプロジェクトや交流会の主旨をわかってもらって交流してもらえるようにする。

② 交流会の内容を決め打ち合わせをする。

決める内容

- (1) どのような形で交流をすすめるか
- (2) それに合ったプログラムを作成する
- (3) その中でガールスカウトに発表することを決める。また、ガールスカウトに聞きたいことなどを決めてまとめたものを交流会当月までにまとめてもらえるようにガールスカウトに要請する。
- (4) ガールスカウトに発表することやプログラムの内容を役割分担して調べたり考えてくる。
- (5) 調べてきたりしたことをもちよって、メンバーの中で検討する。
- (6) ガールスカウトとメンバーの都合が合うように交流会をする日時を決める。

③ ガールスカウトを含めた交流会の実施、次回の打ち合わせ

(ガールスカウトを含めて)

- (1) 前日か当日に交流会が始まる前までに交流会実施地に集まり最後の打ち合わせや掃除をする。
- (2) 当日は時間に遅れないように集まって、予定通りにできるように準備をする。
- (3) プログラム通りに交流会が実施できるように注意して実施する。
- (4) 最後に次回も交流会をしたいことをガールスカウトに伝え、次回の交流会でどのようなことがしたいかということなどの意見を聞き、次回の交流会の話し合いをする。
- (5) 第2回の交流会について互いの活動が分かり合えるようにする。
- (6) 話し合い終了後ベンチャー隊だけで反省会をする。

④ 第2回交流会の打ち合わせ(ベンチャー隊のみで)

- (1) 前の反省点などや、相手隊の希望を考慮して第2回交流会の詳しい内容を決めて必要なことを調べ、そのことを検討し、うまくできるように練習する。
- (2) 決まったことをガールスカウトに報告しガールスカウトの意見をきく。また、そのガールスカウトの意見を参考にもう一度検討する。

⑤ 第2回交流会の実施

- (1) 第1回同1ベンチャー隊は遅れないように早めに集合し準備する。
- (2) プログラム通り実施する。
- (3) 交流会のあと、ベンチャー隊だけで反省会をする。

活動プロジェクト報告書

藤井寺台 3 団ベンチャー隊
山村 恭淑

プロジェクト名： ガールを知る

挑戦アワード： 文化活動

活動実施機関： 平成 9 年 10 月 26 日(日)～平成 10 年 12 月 23 日(水)

主な活動場所： 富 1 スカウトハウス

所属： 大阪連盟南大阪地区藤井寺 3 団

チーム名： イブとゆかいな仲間たち

チーフ氏名： 山村恭淑

マネージャー氏名：北 晃

グループメンバー名：湯川卓也 平尾雄一郎 川本敏貴 上田洋之 川崎将司

参加リーダー：西口篤志

承認欄：平成 年 月 日 隊会議にて

リーダー：

作成者：山村恭淑

1. 活動記録のまとめ

1997 年 11 月 2 日(日)19:00～富1スカウトハウス

決定事項

- ・交流相手隊の発表 大阪 27 団
- ・交流会の計画と打ち合わせ
- ・次回集会日の打ち合わせ(11 月 22 日か 23 日)

1997 年 11 月 22 日(土)20:00～ 富1スカウトハウス

- ・交流会のくわしい企画
- ・交流会伝の役割分担

役割分担

司会	:	北
各国の報告	:	山村 上田 川本
ボーイスカウトのシステムの紹介	:	湯川
ゲーム	:	平尾 川崎

- ・ガールスカウトとの初顔合わせ予定
候補

① 1998 年 1 月 18 日(日)10:00～

② " 1 月 25 日(日)10:00～

候補地 富1スカウトハウス

- ・次回集会 12 月 17 日 富1スカウトハウス

1997 年 12 月 17 日(水)PM7:00～ 富1スカウトハウス

- ・ゲームのネタ合わせと練習

ゲームの内容

- ①ギュータンゲーム
- ②ピンポンパンゲーム
- ③せんだみつおゲーム

- ・初顔合わせ日決定 1998 年 2 月 1 日(日)

1998 年 1 月 31 日(土)19:00～ 富1スカウトハウス

- ・交流会の日時変更を相手隊から求され変更日を決定(3 月 22 日)

1998 年 3 月 21 日(土)19:00～ 富1スカウトハウス

- ・掃除
- ・最終打ち合わせ

1998 年 3 月 22 日(日) 9:00～ 富1スカウトハウス

- ・交流会
- ・次回の活動に向けて打ち合わせ

1998 年 3 月 31 日(土)14:00～ 富1スカウトハウス

- ・ガールスカウトと一緒に次回の活動に向けて打ち合わせ

決定事項

- ・立ちかまどで野外料理
メニュー : ターピン ハンバーグシチュー
- ・開会式について
ソング 「そなえよつねに」
国旗儀礼 : 人数がそろえばガールの方法で
- ・閉会式について

普段通りボーイの方法でやってからガールの方法で

1998 年 8 月 10 日 9:00 ~ 17:00 富 1 スカウトハウス

・ 第 2 回交流会 ・ 立ちかまどでターピンとハンバーグシチューを作る

1998 年 12 月 23 日 18:00 ~ 富 1 スカウトハウス

・ 報告書作成

2. 交流会について

① 第 1 回交流会

日時 1998 年 3 月 22 日 8:00 ~ 13:00

場所 富 1 スカウトハウス

交流隊 大阪 27 団(河内長野市) レンジャー部門(高 1 ~ 高 2)

交流スカウト 山口隊長 中村団委員

スカウト 藤原さん (高 3)

橘さん (高 2)

参加リーダー 佐野隊長 西口隊長

プログラム

1. 開会式

① 国旗掲揚

② ソング「連盟歌」

③ 隊長の話

2. 自己紹介

3. ボーイスカウトのシステムの紹介

4. 各団活動の報告

5. ガールスカウトのシステムと活動の紹介

6. ゲーム

① ギュウタンゲーム

② ピンポンパンゲーム

③ せんだみつおゲーム

④ キムスゲーム

7. いろいろな話 (フリートーク)

8. 閉会式

① ソング「光のみち」

② 隊長の話

③ 国旗降納

交流会でわかったこと

ガールスカウトのシステム

・ 入隊上進はそれぞれ 4 月に行われる

・ ブラウニー部門(小 1 ~ 小 3)

ブラウニーとは妖精という意味で絵本の中の話から由来されている。基本的に自立自主を目標として、キャンプは 2 泊 3 日程度の舎営

・ ジュニア部門(小 4 ~ 小 6)

自分たちで企画をし、実行していく中で自主性を養うことを目標とし、キャンプではテントを使う。

・ シニア部門(中 1 ~ 中 3)

3 つのテーマを目標とし、高度な野外活動をする。

・ レンジャー部門(高 1 ~ 高 3)

御堂筋パレードなどの奉仕や地区での活動を中心に自主性に重んじた活動

をする。

- ・大阪 27 団の活動状況

大阪府の南東地区に属し、設立 25 周年、現在全員で 15 人程度の小数で活動していて主にキャンプや河内長野市民隊に参加している。

交流会でガールスカウトに報告したこと

ボーイスカウトのシステム

- ・ビーバースカウト（小学 1 年生（幼稚園年長）～小学 2 年生）

主に活動は土日などの休日に行われこの年代の特性や成長をふまえ次の 3 つのねらいを置いている。①みんなと仲良く遊ぶ②自然と親しむ③楽しみ、喜びをわかちあう。活動は主に地域や子供に合わせて行われる。生活、健康、自然、社会、表現の 5 つの目標が活動に組み込まれていて、目標を達成するとバッジがもらえ努力や進歩が励まされる。

- ・カブスカウト（小学校 2 年 9 月～小学校 5 年 9 月）

活動の目的は楽しく遊びながら自分で考え自分のことは自分です。みんなルールを作ってなかよく遊ぶこと。自然や社会とふれあうことによりフェアプレー、正義、忍耐、誠実、友愛、協調、責任を学び自立心や創造力を養う。また、2 年生 9 月からはうさぎ、3 年生 9 月からはしか、4 年生 9 月からはくまの 3 つの課程に分かれそれぞれ有意義で楽しいプログラムを用意している。

- ・ボーイスカウト（小学校 5 年 9 月～中学校 3 年 9 月）

主に本格的な野外活動や奉仕活動を行う。ビーバー、カブとは違い班長を中心とした 5 ～ 7 人程度の班で自分たちで考え活動を行う。これは自分たちで決断することや自発的な活動また自分たちで計画し実行し反省することにより高度な活動ができるようになることや、その能力を社会で生かすことを目的とする。

初級、2 級、1 級、菊スカウトの 4 種の進級科目がありそれぞれの進級科目を修めることによって進級できる。2 級スカウトになれば高度な技術を必要とする技能章を修得できる。

技能賞の種類：野営章、救急章、天文章、わら工章 他 60 種類以上

- ・ベンチャースカウト（中学校 3 年 9 月～20 才まで）

自隊だけでなく他隊ともメンバーで組みプロジェクトを考え、実行し、アワードをとることを目的としている。プロジェクトには奉仕、野外活動、文化、社会などの項目がありその中から行う。また技能章の修得も可能である。

各団の活動報告

1. 藤井寺 3 団

- 9 月 上進式、入隊式、新しい班長を決める。秋季キャンプの予定を立てる。
- 10 月 秋季キャンプ 班での新しい役割を決める。
- 11 月 大和川河川敷、団本部周辺のクリーン作戦
- 12 月 団本部のある藤井寺カトリック教会の人ともちつきをしたりバザーをする。
- 1 月 大晦日から元旦にかけて初日の出を見に信貴山までハイキングをしたり老人ホームの見学をする。
- 2 月 地区の BP 際や耐寒登山をしたりする。
- 4 月 春のキャンプの準備をする。
- 5 月 ゴールデンウィークに春季キャンプをする。
- 6 月 カヌーに乗りに行ったり、教会の礼拝に参加する。
- 7 月 夏季キャンプの準備やつり大会をする。
- 8 月 夏季キャンプをして、教会の祭典に参加してバザーをする。第 12 回

日本ジャンボリーに参加

2. 富田林 1 団

- 9 月 上進式、入隊式、班編成 年間プログラムの作成
- 10 月 隊会議など
- 11 月 ベンチャーワークショップ、ユニセフ募金に参加
- 12 月 バザー、もちつきを団本部のある西方時で行う。大晦日に除夜の鐘をついたりそばを打ってスカウト全員に食べてもらう
- 1 月 一般参加のあるスキー講習会が行われる
- 2 月 アフターフォーラムに参加する
- 3 月 石川や団本部周辺のクリーン作戦をする。二上山～紀見峠間のダイヤモンドトレイルの移動キャンプをする。
- 4 月 緑の募金を行う。
- 5 月 市民祭りのパレードのプラカード持ち、鼓隊として参加。
- 6 月 ベンチャースカウトフォーラムに参加する。
- 7 月 夏季キャンプの準備
- 8 月 団本部の清掃を行う。 夏季キャンプをする。第 12 回日本ジャンボリーに参加。上進者のお別れファイヤーをする。ベンチャー隊はここで割りばし鉄砲づくりなどの催しやくんせいやダンパを作った。

(感想と反省)

この交流会をするまではガールスカウトに対してもっとボーイスカウトとはちがった所だという印象があったがこの交流会をしてからはガールスカウトに以前とはくらべて親しみをもてた。ガールスカウトの活動は詳しい事は今までよく分からなかったが、今回の活動を通して今まで分からなかったガールスカウトの活動について少しではあるが知れたと思う。そしてガールスカウトの活動でボーイスカウトとちがって親やリーダーの都合が大きく影響する事にボーイスカウトとガールスカウトのちがいを感じた。またガールスカウトでは多くの人たちが活動をしながらなぜこのようなことをしているのかとと思っていることに一番驚いた。またガールスカウトも人数が集まりにくかったり隊員がへってきたりしてボーイスカウトと同じようなことになってきていると知ってボーイスカウトとガールスカウトの間での意見交換が必要だと思った。またボーイスカウトではプログラムを作ったりする時はリーダーがスカウトの意見を聞いてそれにそってリーダーがプログラムを作るがガールスカウトはリーダーがほとんど女のリーダーなので家の都合でキャンプの期間が短くなってしまう。そういうところで今の社会問題の一部が現れてしまうことが残念だった。またボーイスカウトにも最近女の子が入るようになって今までのボーイスカウトの方針だけでなくガールスカウトの方針もとり入れていくべきだと思う。また今回の交流会全般について実施するまで長い時間の準備期間があったが、交流会がうまくプログラム通りに進んだので良かったと思う。また今回はすべてボーイスカウトのやり方で交流会をすすめてきたが、次回からは打ち合わせ時からガールスカウトの人に参加してもらってガールスカウトの意見や方式を取り入れたい。

3. 第 2 回交流会について

第二回交流会のための話し合い

日時 3 月 31 日 PM2:00 ～ PM4:00

第 2 回交流会についての意見

内容

1. オリエンテーリング
2. いかだを作って乗る
3. 立ちかまどをつくって料理
4. 野草料理

5. テントをたてる

開会式について

- ・ソング そなえよつねに
- ・国旗儀礼 人数がそろえばガールの方法で

閉会式について

- ・ボーイのやり方してからガールのやり方です。

決まったこと

立ちかまどで料理

メニュー : ターピン ハンバーグシチュー

第2回交流会

日時 : 1998年8月10日 AM9:00 ~ PM5:00

場所 : 富田林第1団スカウトハウス 石川河川敷

交流隊 : 大阪27団

参加者 : ガールスカウト : 橘さん (高2)

沢田さん (高2)

ボーイスカウト : リーダー : 西口隊長

スカウト : 山村 北 川崎 上田 平尾

テーマ : 共に作って、共に食べる

準備

ボーイスカウト

- ・活動場所(富1スカウトハウス)の使用許可
- ・丸太の用意
- ・立ちかまどの立て方
- ・ハンバーグシチューの作り方

ガールスカウト

- ・ターピンの作り方
- ・ソング(やくそくの歌)

持ち物 : 軍手 作業着 食器セット スプーンセット

プログラム

9:00 ボーイ集合

準備

10:00 ガール集合

開会式

10:30 買出し(ダイエー富田林店) 立ちかまどの組み立て

12:00 料理

13:00 食事

14:00 かたづけ

15:00 閉会式

15:30 反省会

17:00 ボーイ解散

実際は

9:00 ボーイ集合

談笑会

10:30 ガール集合

買出し

11:00 開会式

11:10 立ちかまど組み立て開始 立ちかまど用の立採集

13:00	立ちかまど完成	料理開始
16:00	食事	歌のレクチャー(ガールのもの)
17:00	閉会式 後かたづけ	ガール解散
19:00	反省会	
20:00	解散	

感想

今回はほとんど予定通りにいかなかった。集合する時から時間通りに集まれなかった。それに連絡がきっちりつたわってなかったこの点は今後気をつけていかないといけなしと思う。買出しについては時間が予定していたよりもかからずにスムーズにできて良かった。立ちかまどのついでにはかなり時間がかかった。このことについてまきやロープおよびばつ材の準備がほとんどできていなく当日になってあわててあつめたり、土を採取する予定だった場所もかたすぎてじめんをほれなかったりしたことが原因だったと思う。だから前から入手方法や採取方法を前からもっときっちりと決めておくべきだったと思う。しかし立ちかまどの組み立てはガールスカウトの人たちにとっては始めてだったらしいのでいい経験になってよかったと思う。

また調理については以前からもっと勉強していればより早く調理できたと思う。だから今回はいきなり勉強も市内で知らない料理をしたので時間がかかったと思う。ガールスカウトの人たちは人数が少ないうえにいろいろなことで僕たちが時間をとって、スムーズに進まなかったのであまり楽しくなかったと思う。かたづけはきっちりとできていたので特に問題はなかったと思う。今回は一時間だが作業中に雨がふったりしてもっと外で作業する予定だったのができなくなって残念だった。

今回の交流会で失敗ばかりしたがその多くが不注意や事前の下調べの不足でおこったことのような防ぐことのできるようなことなのでとても残念だ。次回からこのような活動をするときは事前の下調べと打ち合わせを確実におこなってきっちりとした活動をしたい。

今回の活動はこの交流会で終わるがこのプロジェクトをしてボーイスカウトとガールスカウトの違いや共通しているところをより理解できて良かった。なぜなら今までガールスカウトはボーイスカウトが女の子になったようなものだと思っていたがシステムもその内容もまったく違ったものだったからだ。

またこの活動を通して、ボーイスカウトとガールスカウトの両方に共通した問題点もわかった。例えば最近人数が少なくなっているというようなものだが、ボーイスカウトに女の子が入隊してくるようになってきている今、もっと話し合ったり、合同で活動をする機会を増やしていくべきだと思う。

この活動を通して最初の交流会の時は打ち合わせをきっちりして交流会がうまくいったと思うが、2回目は打ち合わせを完全にできていなくて、あまりうまくいかなかった。

このプロジェクトで一番よかったのはボーイスカウトでない団体の人たちと交流できて意見を聞いたことだと思う。

費用
内訳

・第1回交流会

景品	1, 313-
ジュース、お菓子	1, 162-
小計	2, 475-

・第2回交流会

消耗品	208-
シチューの材料	1, 481-
ターピンの材料	2, 749-
ジュース、お菓子	870-
小計	5, 308-

合計 7, 783- 予算より安くすんだ。

このプロジェクトを振り返って

始めてあった時はメンバーのみんなが別の隊にいたのであまりうちとけた感じではなかったけれど、テーマがガールスカウトとの交流ということもあってプロジェクト全体を通してメンバーのみんながのっていたのでチーフとして僕はとても活動がしやすかった。確かに最初のころはメンバーとはあまり親しくなく、話しにくかったが、プログラムが進むにつれて親しくなり、ボーイスカウトとは関係のないいろいろな話ができるようになり日ごろの生活などについて意見交換ができてよかった。リーダーも大学生のリーダーということもあって、高校の時の話や大学の話などを聞いて大学や社会に対して興味がわいた。それに、リーダーとメンバーの年が近かったので、集会の時だけでなく帰りの電車の中や帰り道も会話がすすみ、楽しく過ごすことができた。そのことは最初みんなが集まった時に思いがけず言ったテーマである「ガールスカウトと交流する」と言うことにたくさんの人が乗ってくれてこのプロジェクトを進める上でメンバーがたくさんできたということもあると思う。このプロジェクトがたくさんの人ですすめられることに決まり、このプロジェクトを発案したことで、僕がこのプロジェクトのチーフをすることに決まってとてもよかったと思う。このたくさんのメンバーのみんなと前に書いたように話したりするのが楽しかったこともあり、集会は終電ぎりぎりまで続いて、駅まで必死で走ったりしたこともあったがそれはそれで楽しかった。またこのプロジェクトには同じ事を目的とするメンバーが集まっていたので話し合いや打ち合わせもスムーズに進んでいって計画などもほぼ完全なものができる。

ガールスカウトとの交流については僕がチーフということもあって交流するガールスカウトの隊との連絡係にいつの間にかなっていました。交流したのは僕の学校の先生が役員をなさっている隊で思っていたよりも早く決まってよかった。だから当然のころだが電話でガールスカウトの人と話すのだが、初めて話した時どんな人なのか、とても不安だった。結構この時、ガールスカウトの人と話さなくていい他のメンバーをととても羨ましかった。チーフとして当然の仕事なのだが、この連絡係だけは、口下手の僕にとってかなり厳しかった。ガールスカウトの方の連絡をとってくださった方も話しやすい方だったので、とても助かった。また、このプロジェクトで一番困ったのは、メンバーとガールの人たちの都合を聞いて交流会の日を決めることだ。なぜなら、みんなの都合がなかなか合わなくて、都合のつく日に決めるまで、とても時間がかかってしまったからだ。だから、計画から実行に移すまで長い時間がかかってしまい、当初の予定を大きく崩れていた。

とうとう、交流会の近くの日になって、地区のリーダーの佐野さんが、近々僕たちが交流会をすることを聞いて電話して来てくださった。その内容は、佐野さんも交流会に来てくださるということだったが、佐野さんが、僕たちがこの活動をしていることを忘れないでいてくださったことがとても嬉しかった。そして、交流会の日になって、僕はガールスカ

ウトの人たちがちゃんと来てくださるのか、とても心配で、その上、まだ顔を合わせたことがなかったので、どんな人が来るのか不安だった。ちょうどその頃、僕は家にガールスカウトに発表する原稿を忘れて来たのを思い出し、必死で書き上げた。こういう時の失敗は、必要以上に頭を混乱させるもので、例にもれず、この時の僕はこのことで、とてもわけの分からない状況だったので、このおかげである程度は緊張がほぐれた。そうこうしているうちに、佐野さんがいらっしゃって、ガールスカウトの方も到着された。こうして、全員がそろったわけだが、交流会が始まってみると、みんな緊張していて、会場の雰囲気はとても重々しかったが、ガールスカウトの人たちと話しているうちに、同じような問題を今、抱えていることを知り、そのことについて話したり、お互いの活動なんかの話をしているうちに、とても和んできた。この時は、今までガールスカウトの人たちをこんなに自分たちの近くに感じる存在だと感じたことはなかったのに、とても自分たちの近くに存在するのだと感じ、同じように活動する仲間としての意識とはいかないが、親しみが沸いた。それから、僕たちが今までの打ち合わせでがんばって練習をしてきたゲームをした。このゲームで、西口さんがリードしてくださり、とてもみんなの気分がのって、とても盛り上がって、とても楽しかった。それから、ガールスカウトの人たちとの会話もとても盛り上がって、よりガールスカウトのことがよくわかった。この時、ガールスカウトのリーダーで、何回か僕と電話で話してくださった方も、とてもこの会話をリードしてくださり、とても会話が弾んだ。初めて企画したプロジェクトで、初めてした交流会がこのように終わり、とてもよかったと思う。

次のガールスカウトとの第2回交流会に向けての打ち合わせでは、僕は前のような緊張感もなくできたのでよかった。そしてこの時、ターピンという料理をガールスカウトの人から教えていただき、とてもいい発見をした。この新しい発見も、ガールスカウトの人との交流がなければなかったことなので、この交流会をしていて本当によかったと思ったと思う。

そして、とうとう第2回交流会の日になり、今回の交流会では、みんな一度会ったことのある人がほとんどだったので、前のような緊張はなかった。最初から和やかな雰囲気でするのも楽しくていいと思う。この交流会の前日まで、僕はジャンボリーに行っていたので、その時の話をしたりして、とても楽しかった。僕はそれから、食材の買出しに行ったのだが、前から特にターピンの材料に関して決めていなかったの、あれこれといろいろ買い物をした。このような買い物も、日頃あまりできないので、たまにはいいものだったと思った。帰ってみると、残りのメンバーが立ちかまどを組み立てていたので、買出しに行った人もみんなで作った。あまり今まで、こんなに大勢の人数で立ちかまどを作ったことがなかったので、確かに効率が悪いが、とても楽しみながら作れ、ガールスカウトの人と、より親密になれた気がした。料理を作り始めて、僕はターピンの生地を作ったのだが、強力粉に熱いお湯を入れてかき混ぜると、すぐ固まってしまうので、かき混ぜるのがとても熱かった。こういうことも、ターピンを作る上で、必要だと思ったが、完全にかき混ぜられなかったの、むらが出てしまった。また、立ちかまどの方では、雨が降ってきたのでずぶ濡れになってしまった。このようなハプニングも時には楽しいことだ。そうこうして、料理ができて食べていると、いろいろなことがあっただけに、とてもおいしく食べることができた。

今まで、ボーイスカウト、ベンチャースカウトと長い間活動してきたが、このように長く、しんどいプロジェクトは初めてだったが、こんなに楽しいプログラムも初めてだった。その上、運良く、チーフになれたので、人一倍いい経験ができた。これだけ、たくさんのメンバーがいろいろな隊から集まり、一つの目標に向かって活動できるのはベンチャースカウトのいい所だと思う。その上、ガールスカウトと交流ができ、知り合えてとてもよかった。大変な時間と労力をこの活動に向け、それなりに結果を残せたと思う。また、ボーイスカウトに関すること、そうでないこともいろいろと気付くことができてよかった。

しかし、細かい所までも目を向けると、いろいろな反省点が出てくる。今まで述べてきたように、下調べや、事前の勉強についてかなりおろそかだった。その上、時間に対してもかなりおろそかだった。これからは、このような点に気をつけ活動を続けていきたい。ガ

ールスカウトの人からすれば、今回の活動はボーイスカウトについて知らなかったことを知り、分かるのに十分だとは言えないものの、かなりの疑問を晴らすことができたと思う。それに、ボーイスカウトはガールスカウトと比べ、立ちかまどや結策など本当に多種に渡たる活動をしている。また、そのことに関し、ガールスカウトはボーイスカウトに対し、本格的な活動をしていると思ったのではないだろうか。また、技能章に関して、これらはいろいろと専門的な分野まであるので、それに関しても同様に思ったと思う。しかし、今まで僕はそのことを当然と思っていたが、一般の人からすると、それらはすごいことかもしれない。キャンプにしてもそうだ。ガールスカウトの人はキャンプを楽しんでいるが、時にはとてもしんどく、つらいこともあるが、周りの人からはそう見えるのだろう。今まで知らなかったことを知り合えて、よりよくお互いのことをこの活動を通してできたと思う。

これからは、第2回のプロジェクトとして、包丁の職人の方と交流することを始めているが、今度はもっとよく知り、自分の世界を広げたい。また、今回の活動を通し、ボーイスカウトに女の子が入ってきている今、もっとガールスカウトとの意見交換が必要だと感じた。また最後になりましたが、交流してくださったガールスカウト大阪第27団のみなさん、指導、ご意見をくださった西口さんと佐野さん、その他のリーダーのみなさん、どうもありがとうございました。

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	泉州南地区	団・隊	阪南第1団
代表者名	山下 晃	隊長名	西山 廣海
プロジェクト	サンタさん		
目的	BS阪南第1団とGS142団合同クリスマス会をベンチャープロジェクトとして 取り組み成功させる		
挑戦アワード	5.分化活動		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
山下 晃	阪南1団	チーフ	ゴールデンアワードを取る
吉田 芳実	GS大阪142	マネージャー	良いクリスマス会にする
一森 公輔	阪南1団	会計	昨年を超える
山本 典弘	//	ゲーム進行	チームワークを良くする
竹中 広和	//	スタンプ進行	真剣に取り組む
山下 正洋	//	クラフト進行	集会に積極的に参加する
館 涼太	//	アドバイザー	役に立つようなアドバイスをしたい
活動期間	平成10年9月21日～12月28日		
活動場所	スカウトハウス、市立上荘小学校体育館		
活動の概要	自分たちの学年の特徴を出すため牛乳パックの再利用によるクリスマスツリーの作成と、すべてのプログラムの企画から計画実施展開、評価反省まで全部自分達の手でやり遂げる。		
添付書類			

ベンチャープロジェクト活動企画書

阪南第1団ベンチャー隊

No.	項目	企画の明細
1	プロジェクト名	サンタさん
2	目的	B S 阪南1団とG S 大阪142団の合同クリスマス会を成功させる
3	テーマ	今年の特徴を出せる楽しいクリスマス会の企画
4	活動期間	平成10年9月～12月
5	実施場所	スカウトハウス、上荘小学校
6	交通機関と料金	なし
7	活動単位	グループ
8	グループメンバーと役割	山下晃（チーフ）、一森公輔（会計）、山本典弘（ゲーム） 吉田芳実（マネージャー）山下正洋（クラフト）、竹中広和（スタント） 館（アドバイザー）
9	活動内容	毎年合同クリスマス会をやっているがリーダーがやってきたのをベンチャー隊に任せて貰える様になって3年目になるので、今年の特徴（目玉作り）を出したい。
10	タイムスケジュール	企画 計画 実施展開 反省評価 ← → ← → ← → ← → 9/6～10/13 テスト期間 11/1 11/29 12/20 12/28
11	略地図	なし
12	事前準備	1. 必要な技能 牛乳パック利用のクラフトを11月中旬まで市図書館で調べる 2. 下見の実施 小学校体育館の放送設備を皆で見に行く 3. 事前調査事項 牛乳パックを各隊スカウトまとめてハウスへ集めて貰う 4. 会部との交渉 リーダーとの合同会議3回位開く 5. 個人装備 なし
13	必要な施設、資材、準備品	牛乳パック、ダンボール、クラフト道具、色紙、セロテープ、カメラ 賞品、サンタの服、風船、スタントの道具
14	予想される障害と安全対策	ハサミ、カッターナイフなどの刃物でケガをしない様にする
15	緊急時の連絡方法	チーフ→隊長→副長→団委員長
16	必要な経費	団、隊
17	参加予定者	各隊リーダーからスカウト、保護者、小りすの数を報告してもらう
18	隊会議の承認	平成10年11月7日
19	隊長サイン	西山 廣海

プロジェクト計画書

阪南1団ベンチャー隊

プロジェクト名 サンタ

出発日時 平成10年12月20日 8時20分

集合場所 スカウトハウス、上荘小学校

到着日時 平成10年12月20日 15時00分

解散場所 スカウトハウス、上荘小学校

所属	大阪連盟泉州南地区阪南1団ベンチャースカウト
チーム名	トナカイさん
氏名	山下 晃
グループ メンバー名	一森公輔、館、山本、竹中、山下、吉田（GS）
隊長承認	西山廣海

1. プロジェクトへの提案

氏名	年齢	級	要望・求めるもの
山下あ	16	V S 章	全員をまとめてよりよいプロジェクトにする。 今年の特徴を出したい
一森	17	〃	決断力をたかめるために会計として細かい出し入れにも ノートにひかえる様にする。
竹中	16	VSバッジ	皆が楽しめるクリスマス会にする。
山本	16	VSバッジ	ゲームの担当に決まったので全員が楽しめる種目を 選びたい
山下ま	16	VSバッジ	クラフト担当なので来年も使えるようなものを選びたい
館	18	V S 章	昨年の失敗を生かし、タイミングよいアドバイスをしたい。
吉田(GS)	17	レンジャー	ベンチャースカウトと仲良くなりよいプロジェクトにする。

2. ニーズの整理

- ①共通するニーズはないか。
1. 楽しいクリスマス会
 2. 自分達でやりがいを感じられる内容
 3. 今年の特徴を出す
- ②どれから先にやるか順位をつけよう
1. プログラム（当日までの日程と内容）
 2. 資料集め
 3. 材料集め
 4. 製作
- ③とりまとめて確認しよう
- 今年の特徴（目玉作り）をツリーにする。

3. 企 画

(1) テーマ	クリスマス会
(2) 目的	ベンチャープロジェクトの成功 楽しい（スカウトから見て）クリスマス会
(3) 参加者	ベンチャー隊：6人 GSレンジャー部門：1人
(4) 日時(期間)	平成10年9月～12月
(5) 目的地(コース)	スカウトハウス、上荘小学校
(6) 内容	ボーイとガールの合同クリスマス会
(7) 方法	ベンチャープロジェクトの計画と実施を皆で協力してやりとげる。
(8) 大まかな予算	20,000円～30,000円
(9) お願いしたい援助	団の補助金、昼食のぶた汁、会場の借り入れ手続き
(10)必要と思われる資源	牛乳パック

4. 調査、作業の項目

- (1) 昨年までの資料のチェック
- (2) 図書館や本屋でアイデア探し
- (3) 皆で検討する
- (4) 各担当が具体的にする
- (5) 日程を決める
- (6) すすみ具合をチェックする
- (7) 完成（当日に備える）

5. 個人のテーマ

氏名	担当	テーマ
山下晃	チーフ	チームをゆくリーダーとの連絡役
一森	会計	夏のプロジェクトは準備期間が短かったので9月からじっくり取り組む
館	アドバイザー	昨年良かった事、悪かった事をその都度話をしてやる
山本	ゲーム	ゲームの時間は任せてもらえる内容にする。
竹中	スタント	カブ、ボーイ、ガール各隊リーダーに早く連絡を取る
山下正	クラフト	色々モデルを作ってみてカブ、ボー
吉田	マネージャー	ベンチャーと仲良くなりたいまた、ガールのリーダーとの連絡

6. 作業の分担

氏名	事前準備の分担		実施展開の分担	
	係	要点・準備品など	係	要点・準備品など
山下晃	チーフ	全員をまとめる	チーフ	全員をまとめる
吉田	マネージャー	チームワーク作り に 心を配る	マネージャー	サンタの衣装など心当たりから 借りる
一森	会計	大まかな予算を作る	会計	出し入れ毎にノートに控える
山本	ゲーム	参考書(ゲームの手引きなど)	ゲーム	時間・会場の広さなどを 考えて決めて行く
竹中	スタント	リーダーとの連絡	スタント	スカウトハウスで 実際に見せてもらう
山下正	クラフト	ダンボール 色紙、セロテープ ハサミ、マジック	クラフト	見本を何度も作って見る
館	アドバイザー	昨年の資料	アドバイザー	ぎりぎりにならない様 すすみ具合を見る

7. 装備

グループの装備	個人装備
国旗、隊旗	プレゼント
クリスマスの看板	スリッパ
スタンプの道具	のり、はさみ
ストーブ3つ	スカウト弁当、水筒
ブタ汁の道具	食器、はし
歌詞の紙	ろうそく
ゲームの棒、風船、テープ、イス、笛、画用紙、	
タスキ、ダンボール、折り紙	
カセット	
サンタの服	
ドラえものの服	
ドラミの服	
賞品	
表彰状	

8. タイムスケジュール

12月20日	
8:00	実行委員集合、準備
8:45	スカウト集合（名札を渡す）
9:15	整列
9:25	開会式（吉田）
9:50	スタンプ（つなぎ竹中）各隊5～10分
11:00	ゲーム
12:00	昼食（一森）
12:45	クラフト(竹中)
13:45	マイムマイム（山本）
14:10	キャンドルサービス（山下）プレゼント
14:40	閉会式（吉田）表彰など
15:00	解散

9. 献立

12月20日	昼食	スカウト弁当、ブタ汁
--------	----	------------

10. 事前準備

項目	内容
基礎技能の訓練	牛乳パックを各隊で集めてもらいスカウトハウスでベンチャーがツリー作り
事前調査事項	リサイクル数（各隊の数、不足時スーパーで貰えるか？）
指導を受ける インストラクター	隊長、副長に評価してもらう
依頼、連絡事項	市役所にリサイクル数を聞く
下見の実施など	12月18日、19日 9:00～

11. 安全対策

予想される障害	安全対策
刃物等を使うためきりきず	見回り強化
昼食時ブタ汁配給の為のヤケド	
相互の連絡方法	
V S チーフ→G S サブチーフ→G S リーダー	
V S 一森→山下→竹中	
山本	
V S 隊長、副長	
最後の人はV S チーフまで連絡の事	

隊長の承認（サイン） 西山 廣海

ベンチャープロジェクト

合同クリスマス会報告書

プロジェクト名：サンタさん

泉州南地区阪南第1団ベンチャー隊

プロジェクト名	サンタさん
目的	阪南1団とガールスカウト大阪142団クリスマス会をベンチャー隊のプロジェクト（挑戦アワード：分化活動）と位置付けて活動する。
目標	ベンチャー試行隊の時からプロジェクト活動の運営方法を学ぶ為、団合同クリスマス会に取り組んで3回目になるので自分達の学年の特徴を出す為「牛乳パック」再利用のツリーを作る
活動場所	スカウトハウス、上荘小学校
活動期間	平成10年9月21日～12月28日
挑戦アワード	文化活動

プロジェクトメンバー				
役割	級	学年	氏名	備考
チーフ	V S 章	高2	山下 晃	
マネージャー	インジャー	高2	吉田 芳実	
会計	V S 章	高2	一森 公輔	
アドバイザー	V S 章	高3	館 涼太	
ゲーム進行	V バッジ	高1	山本 典弘	
スタンプ進行	V バッジ	高1	竹中 広和	
クラフト進行	V バッジ	高1	山下 正洋	

実施展開		
日時	実施展開	参加人数
	団会議にてGS142団と合同クリスマス会開催する事が決定	
9月21日(月)	スカウトハウスにて合同クリスマス会第1回会議(顔合わせ) リーダーから昨年の予算、内容等を聞いた。大まかな内容決定	3
9月26日(土)	スカウトだけで第1回会議、大まかな時間、ゲーム、昼食等を決める	5
10月 6日(日)	第3回会議	6
10月13日(日)	第4回会議	5
11月 1日(月)	第5回会議	6
11月 6日(金)	スカウトハウスにて決定している内容を隊長に評価してもらう	9
11月 7日(土)	隊長の評価を見て詳細を検討する内容をより細かくしていく	4
11月10日(火)	第8回会議	3
11月25日(火)	第9回会議	7
11月29日(土)	第10回会議	6
12月 4日(金)	牛乳パックでのツリーを作ることを計画	7
12月 5日(土)	牛乳パックに緑の画用紙を張って行く	4
12月 6日(日)	第13回集会96個完成	2
12月11日(金)	第14回集会12個完成	2
12月12日(土)	第15回集会150個土台作りを始める	7
12月13日(日)	団会議出席(チーフ)クリスマス会準備部つの発表	1
12月16日(水)	クラフトの飾りの見本を作成	6
12月17日(木)	第17回集会	7
12月18日(金)	牛乳パック311個のクリスマスツリー完成 写真撮影用サンタクロース計画作成 体育館下見(2名)	7
12月19日(土)	写真撮影用サンタ完成 体育館下見、内容確認 リーダーとの打ち合わせ	6
12月20日(日)	当日、反省会	10
12月24～25	阪南市役所にツリー展示	
12月28日(月)	ツリー解体、牛乳パックはリサイクルへ	12

班分け表		
班	スカウト	一般
黄	VS中村、BS西村、CS池宮 RR米田、BR西山	渡辺、畑中 本郷
オレンジ	VS山下、CS取り原、田辺、田川 RR河野、JR栗山、BR石田	飯田、幸前 坂田
赤	BS阿部、CS渡辺、幸前 RR槌谷、BR栗山、大島	平田、金井
ピンク	BS西村、飯田 SR米田、呉海、JR万野、Br松尾	飯田、畑谷 森田
白	BS山下、藤田、渡辺、CS平田 SR河野、佐々木、JR新野、BR立田	大島
黄緑	BS中西、吉田、CS大下 SR長谷川、森田	楠本、東
青	VS山本、BS赤田、CS金井 SR北、鳴海、JR江種	渡辺 西平、西平
緑	VS竹中、BS伊吹、古谷、CS大下 SR西村、新野、JR坂口、BR山内	渡辺

ゲーム参加者数

ボーイ VS：4名、BS12名、CS：10名
 ガール RR:3名、SR：9名、JR：5名、BR：8名
 一般 19名

全参加者数

ボーイ スカウト：26名、団委員、リーダー：15名
 ガール スカウト：25名、団委員、リーダー：13名
 保護者他 25名
 合計 104名

備品リスト	
隊	国旗、BS隊旗、GS連盟旗、クリスマス看板、スタツ道具 ストーブ3個、昼食の道具、歌詞カード、棒、テープ 笛、タスキ、風船、イス、画用紙、ダンボール、折り紙 カセット、カセットテープ、サンタの服、ドラえもんの服 ドラミの服、懐中電灯、賞品、表彰状、スリッパ
個人	プレゼント、のり、はさみ、スカウト弁当、食器、はし 水筒、ろうそく
学校	マイク、マイクスタンド、ピアノ、延長コード、スリッパ

安全対策	クラフト時に刃物を使用するので絶えず身の回りを強化する 舞台には上がらないようにする 豚汁が熱いので注意する
評価	今回は忘れ物もなく怪我も泣く無事終わりました、本当によかった

費用明細

使用目的	分類	物品	個数	金額
	菓子			6,046
ゲーム賞品		C／パッケージジ	11	2,178
		ポッキー	11	1,738
		ポテルカ	11	880
		おにぎり	2	230
		午後の紅茶	2	230
		カルピスウォーター	1	115
		コーヒー	1	115
		コアラのマーチ	1	90
		ポテトチップス	1	95
反省会	弁当	から揚げスペシャル	15	8,190
		合計		19,907

使用目的	分類	物品	個数	金額
ツリー製作	文具	画用紙	9	7,106
		セロテープ	5	2,338
		ボンド	4	1,211
		ホッチキス	1	147
		包装紙	1	735
	工具	スプレー	1	625
		小計		12,162
会議	文書印刷		8	3,130
		小計		3,130
クラフト	裁縫	糸	1	693
		小計		693
		合計		15,985

感想

今回の予算は昨年よりも大幅に越えたけど作った物に関しては、満足のいく結果が得られました。

しかし、金銭面での失敗がありました。たとえばコンビニで領収書を貰い後日集計する時に何を買ったか判らなくなり思い出すのに苦労しました。

反対に良かった点はツリーを作るときにあまった画用紙を壁飾りを作ったりして余分な画用紙を買わなかった事です。

今回の反省として次回は何を買うか、どのように使ったかという計画を立てて、買ったものを1つずつノートに書いておくことをしていきたいと思います。

クリスマス会の感想		
役割	名前	感想
チーフ キャント ルサービス	山下 晃	今年は特色に悩み結果牛乳パック（311個）のツリーを製作する事になったが、考えた時にはクリスマス会は目前に迫っていました。 内容あまり決定していないままツリーのほうに手がかかり無用な点が多くありました。 結果あまり満足していないがツリーに関しては満足のいく結果が得られたように思いました。 BS/GSリーダーにはメンバーの人数も減っている事に気づいていたのなら何らかの対策をしてほしかった。 開会式、閉会式では歌の入るところがわからなかったり打ち合わせが不十分でした。小声で相談する場面が数多くありました。 スタンプでは時間が早かったようで声が出ていないように思えた。幕の役割マイクが必要であるなど前もって言ってほしかった。 ゲームは少し短かったせいか不満の声もあり少し物足りないように思った。ゲームの説明もBGNMを流していたためあまり聞いてくれなかった。前日までゲームの準備をして大変だった。人数を考えずに取り組んだ為ゴチャゴチャした場面もあった。 クラフトは難しいものもあれば簡単なものもあり少し作る時間差が出た。 マイムマイムは人気があり成功したと思う。 キャントルサービスでは司会が必要だったし打合せのミスが目立った 本当にもう少し役割を分担していたら段取り良くやって行けてと思う。
マネージャー 開閉会式	吉田芳実	悪い点：ツリーにかかりっきりになってしまって、打ち合わせ不足になってしまったので、当日段取りの悪さが目立った。 自分達もプログラムがちゃんと頭の中に入っていなかったもので、一人一人が流れについて行けなかった。 プログラムの一つ一つをもっと時間をかけて話し合っていれば当日もっと流れが良かったと思うし、スカウトも楽しめたと思う。 良い点：ツリーがとっても良かったしゲームは時間に問題があったが内容は良かったと思う。
会計 昼食	一森公輔	昼食の時間は個人的に毎年物足りないと思う。 自分も音楽を流したけど、まだ一つ何か足りないと思った。 そこで考えたのは誰か音楽が得意な人にギターの弾き語りをしてもらうとか、漫才をしてもらうと結構楽しくなると思う。是非次回の参考にしてほしい。
スタンプ	竹中広和	プロジェクトがスタートした9月から遅れ10月途中から入って内容がわかりませんでした。 ゲームの担当と言われつなぎのゲームを考えるがとても大変でした。 スタンプもゲームも順調に進んでいたと思う。
ゲーム	山本典弘	今回任された仕事がゲームでした。考えるのは本を見たり自分で何回もかんがえたけど大変でした。 でもクリスマス会でやってると考えて良かったと思いました。
クラフト	山下正洋	今回は初めてクリスマス会のメンバーになったけれど途中から入ったのでクリスマス会の内容は良くわからなかった。 だからクリスマス会の途中で小さい声で打合せをしていたからこんどは内容をちゃんと確認しようと思う。

アドバイザー	館 涼太	良かった点： ・早い段階で当日に行なう項目が決まっていたので作業の進行が早かった。 ・作業途中全員各自の役割を理解してやっていた。 ・ツリーにいたっては当日の評判も良かった。 悪かった点： ・当日チーフが自分の仕事以外をしていたので他のメンバーが自分の役割をこなしていなかった。 ・会議中に話を聞いていなかったツリーの製作は突発的発案だったのでもっと計画的に話を進めて行くべきだ。 ・チーフトサブ2人で話を進めていたので他のメンバーに話が入っていなかったから当日のような事態が起こってくる。こういった点は自分のアドバイスのなさを暴露した点だったと思う。
--------	------	--

隊長の評価

分類	隊長の評価
1. はじめに	(1) 阪南1団とGS大阪142団は育成団体がともにライオンズクラブ、岡市内で兄弟関係にある。 (2) クリスマス会を合同開催で親睦を図る伝統がある。 (3) 平成7年5月地区よりベンチャー試行隊の推薦をうけている。 (4) リーダー主導のクリスマス会がマンネリとなっていた。 (5) 試行隊の時にベンチャー隊のプロジェクト実践のネタ探ししていた隊長の発案と段の要請で取り組むようになる。 「スカウトの手による団行事の企画、運営」 (6) ベンチャー隊年間プログラムに組み込み取り組んでいる (7) 平成7年～10年までにペー論、富士登山、剣山登山、鳥取砂丘等の隊大型プロジェクトの実績を残す。
2. 企画	(1) 9月にチーム結成、メンバーはスカウトが自主的に決定 (2) 初めにボーイスカウト、ガールスカウトの各リーダーを含む合同会議を (3) クリスマス会がスカウトのニーズ、リーダーのニーズ、スカウティング上のニーズ、社会のニーズ等バランス良く片寄らないようにすり合わせを行なう
3. 計画	(1) 上記にも紹介したように試行隊から4年目のプロジェクトになるので自分達の学年の特徴を出すのに苦労した点が評価できる (2) 牛乳パックをどうして集めるのか苦労していた。 (3) ガールスカウトが毎年2～3人メンバーに入るが今年は1人しかいなくベンチャーが頑張った。
4. 実施展開	(1) スカウトの報告所には当日の事に比重が置かれているがスカウトハウスでの準備、会場の下見など、すべてスカウト自身の自主性によるもので高く評価 (2) 安心してみておれるまでに進歩した。
5. 評価反省	(1) カブやボーイがお兄ちゃんスカウトが進行しているので騒がず楽しむようになった。 (2) Plan-Do-Seeのサイクルをまわす事を修得し、スカウトの成長が認められ (3) 団、リーダー、スカウト、保護者から高い評価を得るまでになってい (4) アワード（文化活動）の認定を軸になった山下、一森の2名とする。

ベンチャープロジェクト事例集

No.

地区	泉州地区	団・隊	堺 2 3 団
代表者名	坂口周兵	隊長名	中野 俊郎
プロジェクト	卒業記念ビデオ製作		
目的	高校時代の思い出として、 高校3年間の学校行事を収録しビデオや写真をまとめていく		
挑戦アワード	6.専門分野、得意分野の探求		
メンバー			
氏名	所属	役割	個人の目標
坂口周兵	堺 2 3 団	チーフ	映像と表現
活動期間	平成 9 年 1 0 月 1 日 ～ 平成 1 0 年 5 月 2 5 日		
活動場所	学校行事開催地、他		
活動の概要	・映像の基本修得 ・ビデオ撮影の技術修得 ・編集その他技能修得		
添付書類	1. 企画書 2. 計画書 3. 報告書		

企 画 書

プロジェクト テーマ名	卒業記念ビデオ製作
----------------	-----------

所 属	大阪連盟 泉州地区 堺第 2 3 団ベンチャースカウト隊
作 成 者	坂 口 周 兵

プロジェクト メンバー	氏名	役割
	坂 口 周 兵	チーフ マネージャー

隊運営会議 承認	平成 9 年 8 月 2 日 (土)
----------	--------------------

議長	菊 地	会計	久 保	書記	一天満谷	備品	光 田
----	-----	----	-----	----	------	----	-----

隊スタッフのコメント 個人プロジェクトとして許可したい。

隊長のコメント このプロジェクトを本人が成功させるには、相当な根気と努力、 そして大勢の協力者を必要とするので、リーダー側から出来る かぎり応援したい。 中野 俊郎
--

企 画

プロジェクト名 (ネーミング)	動く！卒業アルバム	
挑戦分野 (7つの分野)	専門分野、得意分野の探求	
目 的 実施したい 内容及び方法	卒業記念ビデオの製作 高校時代の思い出として、高校3年間の学校行事等を収録し、ビデオや写真を用いまとめていく。	
プロジェクト 活動期間	期 間	平成 9 年 1 0 月 1 日 ～ 平成 1 0 年 5 月
	①計画書完成	平成 9 年 9 月 末日
	②実施展開	平成 9 年 1 0 月 1 日 ～ 平成 1 0 年 3 月 2 日
	③報告書完成	平成 1 0 年 5 月 2 5 日
活動場所	学校、行事開催地、他	
プロジェクトの 参加者別テーマ	氏 名	個 人 テ ー マ
	坂口 周兵	映像と表現
予算	概算予算 ￥ 5 0 , 0 0 0 - 資金捻出方法 学校より支給 一部個人負担	

計 画 書

プロジェクト テーマ名	動く！卒業アルバム		
挑戦アワード	専門分野・得意分野の探求		
プロジェクト 活動期間	全 体 期 間	平成 9 年 1 0 月 1 日 ～ 平成 1 0 年 5 月 2 5 日	
	個 別 期 間	テーマ	実施日
		映像の基本修得	H 9 . 1 0 ～ H 9 . 1 2
		ビデオ撮影の技能修得	H 9 . 1 0 ～ H 1 1 . 1
		編集その他の技能修得	H 1 0 . 1 ～ H 1 0 . 2

所 属	大阪連盟 泉州地区 堺第 2 3 団ベンチャースカウト隊									
チーム名										
プロジェクト メンバー	氏名				役割					
	坂口周兵				チーフ マネージャー					
	学校の先生				インストラクター					
	テレビ局のスタッフ				インストラクター					
承 認	平成 9 年 9 月 2 8 日 (日) V S 会議にて									
議長	菊 地	会計		書記		リーダー	中 野	作成者	坂 口	

計 画 表

期間（いつごろ）	場所（どこで）	対象者（誰が）	必要とする技能・知識	どのような方法で	誰から支援を受けるか
H9年8月 ～ H10年1月	テレビ局の取材各地	坂口 周平	ビデオ撮影 技能修得	テレビ局の取材補助	テレビ局のスタッフ
H9年10月 ～ H9年12月	学校	坂口 周平	映像の基本知識修得	学校で専攻している授業 （学校の機材使用）	先生
H9年11月 ～ H10年1月	学校	坂口 周平	ビデオ撮影の技能訓練	個人所有のビデオで訓練	先生
H10年1月 ～ H10年2月	学校	坂口 周平	編集その他の技能修得	学校で専攻している授業	先生

報 告 書

プロジェクト テーマ名	動く！卒業アルバム									
挑戦アワード	専門分野・得意分野の探求									
プロジェクト 活動期間	全 体 期 間		平成 9 年 1 0 月 1 日 ～ 平成 1 0 年 5 月 2 5 日							
	個 別 期 間	テーマ			実施日					
		映像の基本修得			H 9 . 1 0 ～ H 9 . 1 2					
		ビデオ撮影の技能修得			H 9 . 1 0 ～ H 1 1 . 1					
		編集その他の技能修得			H 1 0 . 1 ～ H 1 0 . 2					
目的地 (主用プロジェクト 実施地)		学校								
所 属	大阪連盟 泉州地区 堺第 2 3 団ベンチャースカウト隊									
チーム名										
プロジェクト メンバー	氏名			役割						
	坂口周兵			チーフ マネージャー						
	学校の先生			インストラクター						
	テレビ局のスタッフ			インストラクター						
承 認	平成 1 0 年 6 月 1 3 日 (土) V S 会議にて									
議長	菊 地	会計		書記		リ ー ダ ー	中 野	作成者	坂 口	

プロジェクト実施後の評価・反省

プロジェクト名 (ネーミング)	動く！卒業アルバム（個人）		
参加者氏名	坂 口 周 兵		
実施日	1997年10月 1 日～1 9 9 8 年 5 月 2 5 日		
装備・準備段階での評価<メンバーそれぞれの評価> プロジェクトの内容が相当大掛かりな準備と機材が必要であったこと。 更に技能修得も必須であったが、多少の焦りを感じながらも着実にこなすことができた。			
課題に対する評価（メンバーそれぞれの評価）			
参加者	課題	評価	達成度
坂口	映像の基本	実技を通して、当初の目標達成	8 5 %
坂口	ビデオ撮影技術	プロの技術を少しでも習得できた	9 0 %
坂口	編集技術	技術的には問題はなかったが……	8 0 %
プロジェクトで学んだこと 企画が大きくなれば、それなりの準備（費用・機材）と協力が必要である 「備えよ常に」を痛感した。何事もまわりの人々に支えられて物事ができていくことを知った			
チームワークの評価 いくつかの障害や問題はあったが、先生や仲間の協力で閑静できたと思っている			
目標達成度と自己評価 日程、予算、作品構成等次から次へと頭を抱える事があったが、満足できる作品が完成、 反省点もあるが苦勞の甲斐があった。			
新たなニーズが生まれたか 今後（卒業後）、出来れば映像関係の分野に進みたいと考えている。 そこで、更に技能、知識をより深く習得したい。			

今回のプロジェクトの総合評価

このビデオ制作において、問題がひとつあった。それは三年間の記録として、映像素材が完全でなかったこと、もう少し早く企画していたら、素材があったかも知れなかったと思う。

これだけの壮大な企画の作品を制作する過程で、様々な障害がでてきた。

予算・構成・編集日程等、頭を抱えることが多かった。それでも先生や仲間の協力で完成までこぎつけることができた。一人で何かを行なうことはとても厳しいということ何事もまわりの人々に支えられて、物事が出来ていくことを知った。

今回は、今まで勉強したこと、の総まとめのようなもので、編集の技術はもちろん撮影音声等とても向上していて、最高の出来上がりになったと思う。

このビデオは僕の一生の宝として大切にしていきたいと思います。

今後の改善策(次回プロジェクトへのつながりとアドバイス)

今回のプロジェクトは、かなり本人には大きな取り組みとなり、でてきた障害・問題への対応が厳しい面もあった。

今後取り組むプロジェクトには、これらの経験を活かし企画・計画段階で出来るだけ考えられる障害、問題への対応策を講じる様望む。

隊長コメント

将来、映像分野の仕事へ進むことを決めて、テレビ局でバイトをしながら現場の経験を積み、それを自分のプロジェクト(ビデオ制作)に活かして、難しい問題を解決しながら完成させた本人の努力に対して、敬意を表すると共に大いに評価したい。

ベンチャープログラム移行作業チーム

浅田博昭

四宮政利

綾野宏一

高橋延行

大手晴雄

谷口 修

奥 茂樹

富永 晃

奥谷寛一

原口清美

笠井健司

福田雅之

河合浩司

藤渕節也

川口明宏

真名子淳

河盛猛夫

松崎重美

北村英治

山岸茂樹

佐野敏行

(アイウエオの順)

この冊子は上記のメンバーで作成しました。

あとがき

この「ベンチャープロジェクト事例集」は昨年大阪連盟主催で開催された“Golden Award '99”の応募作品を中心に作成しました。

ここに紹介した事例は一例にしかすぎません。同じプロジェクトを実施するにもいろいろな展開方法が考えられます。

この事例集を参考に自分のニーズを満足するプロジェクトに挑戦し、アワードを獲得して下さい。

この事例集がベンチャープロジェクトの参考となれば幸いです。

ベンチャープロジェクト移行作業チーム：代表 谷口 修

ベンチャープロジェクト事例集

2000年3月25日 初版第1刷発行

■発行 日本ボーイスカウト大阪連盟
〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央2丁目13番33号
府立青少年会館
TEL 06-6943-0043

■編集 事例集グループ：奥谷 寛一 協力：奥谷 功一

Printed in Japan



■発行／日本ボーイスカウト大阪連盟

■編集／奥谷寛一

Printed in Japan